

基 礎 分 野

目 的

人間と生活について理解し、自由で主体的な判断と行動ができる基礎能力を養う。

14単位 (255時間)

教 育 内 容	授 業 科 目	単位数	時間数	実施年次
科学的思考の基盤	論理学 論理的思考	1	30	1年次
	文章表現法	1	15	1年次
	教育学	1	15	2年次
	ICT 演習 I	1	15	1年次
	ICT 演習 II	1	15	3年次
	統計学	1	15	3年次
人間と生活・社会の理解	心理学	1	30	1年次
	社会学	1	15	2年次
	人間関係論	1	30	1年次
	生活科学	1	15	1年次
	レクリエーション	1	15	1年次
	文化人類学	1	15	3年次
	英会話 I	1	15	2年次
	英会話 II	1	15	3年次

論 理 学

論理的思考

ね ら い

論理的思考力・表現力の向上をはかることで、主体的な判断能力、推論能力を養うことを目的とする。

1. 正しい論理的思考と正しい推論を行うのに必要とされる基礎的な知識と技術について理解する
2. 他者の思考や表現について理解する
3. 自らの考えについて整理し、論理的かつ効果的に表現する

1単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 序論 論理とはなにか？ 1) 論証 2) 論理的表現	8	講 義	筆記試験 レポート
2. 論理的表現 1) 接続関係 2) 接続の構造 3) 議論の組み立て	8		
3. 論証 1) 事実と意見 2) 論証の構造と評価 3) 演繹と推測 4) 価値評価	14		

参考文献

書 名	編・著者名	発 行 所
プリント		

文章表現法

ね ら い

基礎的な漢字や語彙、文法を復習し、適切な文章読解や資料分析の方法を見につけ、自分の言葉で意見を表現することができる。

1. 基礎的な語彙力を見につける
2. 意見文を書けるようになる

1単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 語彙と文法 1) 語句の正しい意味・用法	2	講 義	筆記試験
2. 語彙と文法 1) 文法的な正しさ	2		
3. 文法読解①	2		
4. 文法読解②			
5. 意見文を書く①	2	演 習	
6. 意見文を書く②			
7. 意見文を書く③			
8. 意見文を書く④			
9. 正しい敬語を学ぶ			

参考文献

書 名	編・著者名	発 行 所
看護学生のためのレポートの書き方教室	江原 勝幸	照林社

教 育 学

ね ら い

看護と教育には限りなく深い共通性がある。看護師を目指す学生が、教育学を学ぶ意味は看護そのものについての理解を深めることであり、職業能力育成に大きく関わっている。その関係性を明らかにすることで看護師に必要な資質の一端を理解する。

1. 人間の成長・発達についての理解
2. 学習や指導の方法についての理解
3. 学習に関わる事項を学び、自己の学習能力を育てる
4. 看護の対象とのコミュニケーションや指導・教育技術に応用できる基礎・基本を学ぶ

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 教育とはどのようなものか 2. 学習から教育へ 3. 現代社会と教育をめぐる問題 4. 社会機能としての教育制度 5. 職業資格制度と学校教育 6. 学ぶことと教えること 7. カウンセリングの方法 8. 看護と教育	15	講 義	出席・受講の状況 及び 小レポートの提出

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 基礎分野 教育学	木村 元	医学書院

ICT 演習 I

ね ら い

現代社会における医療・看護分野では、看護ケアや患者教育など IT（情報技術）だけではなく ICT（情報通信技術）を活用した看護介入が求められている。そのため、コンピュータの操作技術から ICT 活用の現状まで、広く ICT（情報通信技術）を理解する。

1. 情報の伝達・処理・貯蔵について学ぶ
2. コンピュータの基礎知識を得て、操作ができるようになる

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. IT について 2. PC・IPad 概要説明 3. 学習管理システムの基本操作 1) Microsoft teams 2) Microsoft Forms 3) デジタルノートブック (OneNote) 4. オンライン会議システムツールの説明 1) Microsoft teams 2) Zoom 5. Word の基本操作 文書の編集と書式設定 表を使用したビジネス文書の作成 6. Excel の基本操作 簡単な計算式と関数 7. PowerPoint の基本操作 スライドの作成	15	講 義 実 技	実技試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 別巻 看護情報学	中山 和弘 他	医学書院

ICT 演習Ⅱ

ね ら い

ICT 活用の現状を理解し、課題を踏まえた上で、どのような看護介入が可能であるか、これからの看護の在り方を考えていく。

また、IT・ICT を活用した効果的な授業を展開することで、知識・技術を統合する力を見につける。

1. 医療・看護分野における ICT 活用の現状と課題がわかる
2. 看護に活用できる ICT の実際を知り、今後の看護の展望が考えられる
3. 講義内で実際に ICT を活用し、知識・技術の統合ができる

1単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. ICT について 1) ICT とは 2) ICT の意義 3) ICT の目的と分野 4) ICT の現状と課題 2. 医療・看護における ICT の実際 1) ICT 活用の実際 (遠隔診療・MR 体験) 2) 医療・看護における ICT 活用の課題 3) 看護における ICT 活用の展望	15	講 義 実 技 G W	実技試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 別巻 看護情報学	中山 和弘 他	医学書院

統 計 学

ね ら い

統計学は研究分野のみならず、日常生活でも広く使われている。看護を学ぶ人にとっても、統計学の基本的な考え方の習得が必要とされている。この講義では統計学の基本的な知識と分析技術を学習する。

1単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. データの集め方、データの分析 2. 分布の代表値と散布度 3. 正規分布、母平均の推定 4. 割合と割合の差の検定 5. 平均値の差の検定 6. 相関図、回帰直線と相関係数 7. クロス集計と検定	11	講 義	筆記試験
8. 自分たちを対象としたアンケートの作成・実施・集計・分析	4	演 習	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 基礎分野 統計学	高木 晴良	医学書院

心 理 学

ね ら い

1. 心理学を通して自己を見つめ、看護師としての資質に富んだ自己確立を目指す
2. 人の心や行動を体験的に学び他者理解を深める
3. 心理的配慮が求められる事例の学習により、高度な心理学的スキルを身につける

1単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 心理学とは（実験法を通して） 2. 知覚 3. 記憶 4. 学習 5. 集団 6. 知能（知能指数） 7. 心理学的自己分析（質問紙法） 8. 心理学的自己分析（作業法） 9. 人格・適応 10. 心理療法の実際（認知行動療法・うつ病） 11. 発達理論（遺伝と環境） 12. 発達（胎児・新生児・乳児） 13. 発達（幼児・児童・青年） 14. 事例から学ぶ患者の心理と対応 15. まとめ	30	講 義	レポート

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 基礎分野 心理学	辰野 千寿	医学書院

社 会 学

ね ら い

社会学の基本テーマは、人間と人間の関係や人間と社会のあり方を解明することである。

1. 社会的存在としての人間を理解するとともに、多様な社会の中で幅広い物の見方ができるようになる
2. 社会のしくみと機能について理解し、社会で生活することの意味を考えることができる
3. 社会を多面的に理解し、社会ニーズとしての保健・医療・福祉を学ぶための基礎知識を得る

1単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 社会とは何か 2. 社会の成立 3. 人間の社会—人間と社会の関係 4. 社会と国家 5. 現代日本社会の基礎構造 6. 家族とは何か 7. 家族の形成 8. 家族の機能と構造 9. 現代家族の諸問題 10. 地域社会 11. 少産・高齢社会 12. 老人の欲求構造と不安 13. 社会問題、生活問題 14. 社会と行政 15. 福祉国家	15	講 義	筆記試験

参考書

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 基礎分野 社会学	石川 ひろの 他	医学書院

人間関係論

ね ら い

医療に携わる専門職にとって、患者とその家族との良好な人間関係の構築は必須となる。
また、職場における上司、同僚、他の専門職との良好な人間関係の構築も極めて重要である。
本講義では、人間関係の諸問題を理解しながら、関係作りに必要な技能を身につける。

1単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 人間理解 人の知覚に基づく行動について 2. コミュニケーションの場としての集団の役割 集団機能：凝集性、一斉性、コミットメント 3. リーダーシップについて リーダーのタイプ、PM 理論、暗黙のリーダー像 4. 対人認知と友人選択 初等効果、近接性、後光効果、類似性 ステレオタイプ、相補性 5. コミュニケーションについて 治療的コミュニケーション 6. カウンセリングについて コミュニケーションとカウンセリングの違い カウンセリング技法 7. 聞くこと、話すこと 8. 自分を主張する練習・相手を受け入れる練習	30	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 基礎分野 人間関係論	石川 ひろの 他	医学書院

生活科学

ね ら い

生活科学は、生活に充実と発展・向上を目的とした“生活そのもの”を主対象とする実践的応用の学問であり、生活者と生活そのものを見つめ直し、衣食住などの身近な問題から環境、福祉グローバルな問題等、範囲は多岐に渡る。

1. 衣・食・住生活の基本について学び、暮らしについて理解する
2. 自身と他者との個性や価値観の相違を認め、受け入れる
3. 科学は仮説から出発し、常に進歩・発展・変化を遂げるものであるため、固定的な知識よりも流動的な応用力を学び得て欲しい

1単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 生活科学とは オリエンテーション	15	講 義	レポート
2. 学習研究			平常点
3. 防災と衣食住①			(積極性)
4. 日常的な針仕事(マスク制作)			学習研究
5. 防災と衣食住②			
6. 学習研究			
7. 発表(学習研究①)			
8. 発表(学習研究②)			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
プリント		

レクリエーション

ね ら い

1. 表現能力、創造力を養う
2. 人と人との交わりの体験をする

1単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 創作活動（岩原） 1) 手遊び・折り紙・絵本読み聞かせ 2) 手遊び・折り紙・ミニ絵本作成・あやとり ・絵本読み聞かせ 3) あやとり・簡単なゲーム・メッセージカード作成 4) メッセージカード作成・授業感想提出・まとめ	8	講 義 演 習	作品作成 レポート 授業・演習へ の参加態度
2. 音楽活動（山口） 1) こんにゃく体操による柔軟・発声・歌 2) アンサンブルへ挑戦・読み聞かせ体験 3) 発表・まとめ	8	演 習	レポート 授業・演習へ の参加態度

参考書

書 名	編・著者名	発 行 所
プリント		

文化人類学

ね ら い

文化人類学では、世界中に暮らす様々な民族の文化を観察し、人間の社会関係の在り方を研究してきた。この授業では、文化人類学のそうした研究成果を概観し、医療の現場において患者と医療者はいかなる関係にあるべきかを考える。

1. 人間にとって文化のもつ意義を理解する
2. 医療活動も文化の一要素であることを理解する
3. 医療活動における人間関係の特徴を理解し、その問題点を理解する
4. 医療活動における人間関係がはらむ問題点を克服するための医療者のあるべき態度を理解する

1単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 文化人類学とはどのような学問か 2. 文化の視点から医療を考える 3. 仲間とよそ者① 互酬性と市場交換 4. 仲間とよそ者② 対内道徳と対外道徳 5. 医療者と患者との間にある人間関係の問題点 6. 医療職は専門職（プロフェッショナル）である； 専門職とは何か 7. 傷ついた医療者（Wounded Healer） 8. 医療者と患者とのありうるべき関係を求めて； 河野博臣医師の生涯	15	講 義	レポート

参考書

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 基礎分野 文化人類学	波平 恵美子	医学書院

英 会 話 I

ね ら い

1. 臨床で活用される医療専門用語に英語で親しむことができる
2. 英会話文を読むことを通して、医療・看護の現状や国による違い、患者の思いなどに関心を深めることができる

1単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 患者の紹介、初診時の状況 2. 患者の家族・背景の説明 3. 患者の生活・病状の変化 4. 治療の経過と予後	15	講 義 ロールプレイ G W	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
プリント		

英 会 話 II

ね ら い

1. 英会話 I の内容を発展させ、医療現場で実践的に使える英語力を身につける
2. 授業では、医療の現場にて想定されるシチュエーションごとの会話の流れに沿った表現の学習を行うが、ただ単に会話表現を学ぶだけではなく、感情豊かに表現できるようトレーニングを行う
3. 英語論文の基本的構造を理解し、読解力の向上を目指す

1単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 患者の紹介、初診時の状況 Unit1－Dialog and role play 2. 患者の家族・背景の説明 Unit2－Dialog and role play 3. 患者の生活・病状の変化 Unit3－Dialog and role play 4. 治療の経過と予後 Unit4－Dialog and role play 5. 医療関係の英語論文を読み解く練習 分からない単語を調べる、内容をノートする、発表する	15	role play 講義・演習	performance Speaking (参加態度) 50% Written Listening tests 50%

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
プリント		

専 門 基 礎 分 野

目 的

人間・医学・保健医療福祉にかかわる基礎的知識を学び、看護の対象である人間理解に役立てる。

22 単位（495 時間）

教 育 内 容	授 業 科 目	単位数	時間数	実施年次
人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	30	1 年次
	解剖生理学Ⅱ	1	30	1 年次
	解剖生理学Ⅲ	1	30	1 年次
	解剖生理学Ⅳ	1	30	1 年次
	生 化 学	1	30	1 年次
疾病の成り立ちと 回復の促進	微生物学	1	30	1 年次
	疾病論総論 病理学	1	15	1 年次
	疾病論Ⅰ	1	30	1 年次
	疾病論Ⅱ	1	30	1 年次
	疾病論Ⅲ	1	15	1 年次
	疾病論Ⅳ	1	30	2 年次
	疾病論Ⅴ	1	15	1 年次
	治療論Ⅰ 薬理学	1	30	1 年次
	治療論Ⅱ 手術療法	1	30	1 年次
	治療論Ⅲ リハビリテーション	1	15	2 年次
	治療論Ⅳ 臨床栄養学	1	15	1 年次
健康支援と社会保障制度	保健医療論	1	15	1 年次
	公衆衛生学	1	15	2 年次
	社会福祉Ⅰ	1	15	2 年次
	社会福祉Ⅱ	1	15	3 年次
	関係法規	2	30	3 年次

解剖生理学

ね ら い

1. 人体の発生、人体の構成要素の正常な構造と機能について系統的に学び、正常に機能している人体について学ぶ
2. 人間の生命について、生命の尊厳について理解を深める
 - 1) 人間の基本単位である細胞で営まれる生命現象に必要なエネルギーの生産、それに関わる物質の移動
 - 2) それに関与する組織・器官の構造と働きのしくみ
 - 3) 組織・器官が相互に協調して働くための調節のしくみ
 - 4) 内外の環境変化に対する適応(刺激と反応)に関わっている組織・器官の構造と働きのしくみ

4 単位 (120 時間)

授 業 科 目	単位数	項 目	時間数	進度
解剖生理学Ⅰ 生命活動を支える 構造と機能	1	身体の構造 人体と構成 人体の発生 器官系統の役割と構造 人体の遺伝学的理解	30	1 年次
解剖生理学Ⅱ 生命活動を支える 生理的機能	1	消化と吸収のしくみ 呼吸のしくみ 循環のしくみ 生活行動からみるからだの理解	30	1 年次
解剖生理学Ⅲ 内部・外部環境を支える 構造と機能	1	器官系統の役割と構造 内部・外部環境への調節のしくみ 体温のしくみ	30	1 年次
解剖生理学Ⅳ 日常生活行動を支える 構造と機能	1	器官系統の役割と構造 筋のしくみ 中枢神経のしくみ 感覚器のしくみ	30	1 年次

解剖生理学 I

生命活動を支える構造と機能

ね ら い

1. 身体を構造として理解することができる
2. 人体の発生のメカニズムを理解することができる
3. 消化器・呼吸器・循環器系の構造と機能を理解することができる
4. 人体の遺伝および遺伝子とその異常について理解することができる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 身体の構造 1) 解剖学とは 2) 人体の構造と区分、解剖学用語	6	講 義	筆記試験
2. 人体と構成 1) 人体の構成 2) 細胞、組織、器官と器官系	14		
3. 人体の発生 生殖細胞、性染色体と性の決定 1) 原胚子の分割とその後の発生			
4. 器官系統の役割と構造 1) 消化器系 歯、口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸 肝臓、胆嚢、膵臓 2) 呼吸器系 鼻、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺、 縦隔と胸膜 3) 循環器系 血管系：心臓、血管、リンパ管、胸管、 脾臓	10		
5. 人体の遺伝学的理解 1) ヒトの生命現象の特性、遺伝子 DNA 2) ヒトの染色体、染色体異常症候群 3) 単因子遺伝、多因子遺伝			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学	坂井 建雄 他	医学書院
遺伝医学への招待 (内容 5 で使用)	新川 詔夫 安部 京子	南江堂

生命活動を支える生理的機能

1. 消化・呼吸・循環の生理的メカニズムを理解することができる
2. 生活行動の生理学的メカニズムを理解することができる

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 消化と吸収のしくみ 1) 嚥下運動 2) 消化と吸収 口、胃、小腸、膵臓、肝臓、胆嚢、大腸 3) 消化管の運動 2. 呼吸のしくみ 1) 呼吸とは 2) 気道の機能 3) 呼吸運動、肺容量 4) ガス交換とガスの運搬 5) 呼吸の調節 6) 呼吸困難 3. 循環のしくみ 1) 循環とは 2) 心臓の機能 3) 心臓・血管の調節 4) 心音、心電図 5) 血圧、脈拍 6) 血液、リンパ、体液、電解質 7) 体液の循環と調節 8) 循環系 4. 生活行動からみるからだの理解 1) 食べる 2) 息をする 3) トイレに行く	24	講 義	筆記試験 (担当講師の コマ数に応 じて配点。合 計 100 点満 点で評価)
	6		

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学	坂井 建雄 他	医学書院
疾病の成り立ちと回復の促進〔2〕病態生理学	田中 越郎	医学書院
看護形態機能学	菱 沼 典 子	日本看護協会出版会

内部・外部環境を支える構造と機能

泌尿器・内分泌器・生殖器・神経系の各器官の構造と機能、生理を理解することができる。

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 器官系統の役割と構造 1) 泌尿器系：腎臓、尿管、膀胱、尿道 2) 内分泌器系：甲状腺、上皮小体、副腎、松果体 下垂体 3) 生殖器系：男性生殖器、女性生殖器	6	講 義	筆記試験
2. 内部・外部環境への調整のしくみ 1) 腎機能 ・腎臓の機能と尿の生成 ・尿の性状 2) 内分泌 ・内分泌性調節の特徴 ・内分泌腺とホルモン機能 3) 免疫 ・体液性免疫と細胞免疫 ・免疫に関与する細胞 ・抗体、補体 4) 自律神経 ・自律神経の分類と特徴 ・自律神経の作用	24		(担当講師の コマ数に応 じて配点。合 計 100 点満 点で評価)
3. 体温のしくみ 1) 体温とは 2) 体温の調節			

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学	坂井 建雄 他	医学書院
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔2〕病態生理学	田中 越郎	医学書院

解剖生理学Ⅳ

日常生活行動を支える構造と機能

ね ら い

1. 骨格・筋の構造と機能を理解することができる
2. 運動・知覚に關与する神経系の生理を理解することができる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 器官系統の役割と構造 1) 骨格系：骨、骨格、骨の連結 2) 筋系：骨格筋、姿勢と筋肉	14	講 義	筆記試験 (担当講師の コマ数に応 じて配点。合 計 100 点満 点で評価)
2. 筋のしくみ 1) 運動 2) 姿勢と運動の調節	4		
3. 神経のしくみ 1) 中枢神経の機能 2) 大脳、間脳、脳幹、小脳 3) 末梢神経の機能 4) 脳神経、脊髄神経 5) ニューロン	6		
4. 感覚器のしくみ 1) 外皮系、体性感覚 2) 視覚 3) 聴覚、嗅覚 4) 平衡感覚	6		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学	坂井 建雄 他	医学書院

生 化 学

ね ら い

生化学は、生命体を構成する物質の化学的性質、生命体内での化学反応を扱う。即ち、人間の生命現象を科学的に学ぶ領域である。

1. タンパク質、糖質、脂質、体液等生体構成物質の化学的性質を理解する
2. 生体内での化学変化、即ち代謝について学び、生命維持に必要な恒常性について理解する
3. 生体内に生じる異常を科学的に理解し、異常をおこした人々への援助とその関連づけを学ぶ

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 序論 アミノ酸 ペプチド結合 2. タンパク質 定義 構造 変性 3. 糖 定義 種類 主な糖の化学構造 4. 糖代謝 エネルギー産生機構 5. 脂質 種類 化学構造 脂肪酸の化学 6. 脂質代謝 分解・合成 7. タンパク質代謝 アミノ酸代謝 8. 中間試験 核酸の化学 DNA の化学構造 9. タンパク質生合性 遺伝 遺伝的疾患 10. 酵素 定義 酵素の基質特異性 11. 生体内液の分布 生体内イオンの意義 12. 恒常性維持 1 ビタミン 13. 恒常性維持 2 ホルモン 14. 血液・尿 成分とその意義 15. 免疫 全体の総括	30	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔2〕生化学	畠山 鎮次	医学書院

微生物学

ね ら い

1. 感染症の原因となる微生物の特徴と生体におよぼす影響について理解する
2. 宿主の生体防御機構(免疫)について理解する
3. 感染予防、感染対策について理解する

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 微生物と感染症 1) 感染症の三要素、感染症の現状、感染症法 2. 病原微生物 2) 細菌 ・細菌の形態と生理、細菌による感染症 ・化学療法と抗菌薬 3) ウイルス ・ウイルスの構造と増殖 ・ウイルスによる感染症 4) 真菌 ・真菌とは ・真菌による感染症 3. 免疫 1) 免疫とは 2) 細胞性免疫と液性免疫(抗体) 3) 過敏症(アレルギー) 4) ワクチン 4. 感染予防と院内感染対策 1) スタンダードプリコーション 2) 滅菌と消毒	30	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [4] 微生物学	吉田 眞一 他	医学書院

疾 病 論

ね ら い

疾病・症状と人間について理解し、健康状態のアセスメントができる基礎知識を習得する。

1. 疾病の原因・発生病理および症状の起こるメカニズムについて理解する
2. 器官系統別に疾病の発生機序・徴候・経過と臓器の構造・機能の変化を正常の解剖生理の知識をもとに学ぶ
3. 疾病の診断、治療、検査、予防について学び、健康のレベルに応じた援助をするための知識を学ぶ

6 単位 (135 時間)

授 業 科 目	単位数	項 目	時間数	進 度
1.疾病論総論	1	病理学	15	1 年次
2.疾病論Ⅰ 呼吸器・循環器・腎泌尿器系	1	呼吸器疾患 循環器疾患 腎・泌尿器疾患	30	1 年次
3.疾病論Ⅱ 消化器・免疫・内分泌・代謝系	1	消化器疾患 免疫疾患 内分泌・代謝疾患	30	1 年次
4.疾病論Ⅲ 脳神経・運動器系	1	脳神経疾患 運動器疾患	15	1 年次
5.疾病論Ⅳ 感覚器・耳鼻咽喉・皮膚・血液・女性生殖器・歯科・口腔系	1	眼疾患 耳鼻咽喉疾患 皮膚疾患 女性生殖器疾患 血液疾患 歯・口腔疾患	30	2 年次
6.疾病論Ⅴ 臨床判断技術	1	臨床判断技術とは 主要症状における看護	15	1 年次

疾病論総論

病理学

ね ら い

1. 疾病の原因・発生機序・病態について理解することができる
2. 症状の起こるメカニズムを理解し、観察に基づいて正常・異常を判断することができる

1 単位（15 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 疾病とは何か 2. 病因論 1) 疾病の原因 2) 疾病の発生 3. 細胞と変化 1) 細胞増殖と再生 4. 疾病の分類 1) 先天異常、奇形 2) 代謝異常 3) 進行性病変 4) 退行性病変 5) 循環障害 6) 炎症と感染症 7) 免疫反応と免疫異常 8) 腫瘍	15	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 病理学	大橋 健一 他	医学書院

疾病論 I

呼吸器・循環器・腎泌尿器系

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 呼吸器疾患 1) 主な疾患の病態生理と主な症状 上気道・気管支の疾患：かぜ症候群、気管支炎、 気管支喘息 2) 肺の疾患 肺炎：細菌、マイコプラズマ、肺腫瘍、閉塞性肺疾患 肺結核、肺循環障害 3) 胸膜の疾患：気胸 4) 主な検査：呼吸機能検査、内視鏡検査、血液検査 5) 主な治療：酸素療法、肺理学療法、手術療法 薬物療法、放射線療法	10	講 義	筆記試験 (担当講師の コマ数に応 じて配点。合 計 100 点満 点で評価)
2. 循環器疾患 1) 主な疾患の病態生理と主な症状 2) 先天性心疾患 3) 後天性心疾患 ・心臓弁膜症：僧帽弁狭窄症、閉鎖不全症、心不全 大動脈弁狭窄症 ・虚血性心疾患：狭心症、心筋梗塞 ・心筋疾患：心筋症、心筋炎 ・血圧異常：本態性高血圧、二次性高血圧、本態性 低血圧、不整脈 4) 主な検査：心臓カテーテル、心臓血管造影 5) 生理学的検査：心電図、心エコー 6) 主な治療：薬物療法、食事療法、安静療法、PTCA 手術療法、リハビリテーション、ペースメーカー	12		
3. 腎・泌尿器疾患 1) 泌尿器科の基礎（解剖・生理）、症候、検査 2) 主たる疾患・病態の診断と治療 ・尿路・性器感染症・尿路結石 ・排尿の異常 ・腎不全と慢性腎臓病 ・尿路・性器腫瘍（腎腫瘍、膀胱腫瘍、前立腺癌、精巣腫瘍）	8		

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕呼吸器	浅野 浩一郎 他	医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔3〕循環器	阿部 光輝 他	医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔8〕腎・泌尿器	阿部 信一 他	医学書院
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔2〕病態生理学	田中 越郎	医学書院

疾病論Ⅱ

消化器・免疫・内分泌・代謝系

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 消化器疾患 1) 主な疾患の病態生理と主な症状 ・食道疾患：食道癌 ・胃・十二指腸疾患：胃潰瘍、胃癌 ・肝臓・胆嚢疾患：肝炎、肝癌、肝硬変、胆石 ・腸疾患：大腸癌、潰瘍性大腸炎 ・脾臓疾患：脾炎 ・急性腹症 2) 主な検査：内視鏡検査、超音波検査、X 線検査、生検、血液検査 3) 主な治療：薬物療法、食事療法、手術療法、化学療法	16	講 義	筆記試験 (担当講師の コマ数に応 じて配点。合 計 100 点満 点で評価)
2. 免疫疾患 1) 主な疾患の病態生理と主な症状 ・自己免疫疾患 ・膠原病：全身エリテマトーデス (SLE)、リウマチ、多発性動脈炎 ・アレルギー疾患 2) 主な検査：血液検査、抗原・抗体検査 3) 主な治療：薬物療法、脱感作療法	6		
3. 内分泌・代謝疾患 1) 主な疾患の病態生理と主な症状 ・糖尿病 ・甲状腺疾患：バセドウ病 ・副腎疾患：クッシング症候群 2) 主な検査：血液検査、ホルモン定量 3) 主な治療：薬物療法、食事療法、運動療法	8		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕消化器	金田 智 他	医学書院
成人看護学〔6〕内分泌・代謝	黒江 ゆり子 他	医学書院
成人看護学〔11〕アレルギー・膠原病・感染症	原 まさ子 他	医学書院
疾病の成り立ちと回復の促進〔2〕病態生理学	田中 越郎	医学書院

脳神経・運動器系

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 脳神経疾患 1) 主な疾患の病態生理と主な症状 脳疾患：脳血管疾患－クモ膜下出血、脳梗塞、脳出血 脳動脈瘤 脳腫瘍 頭部外傷 パーキンソン氏病 脊髄疾患 てんかん 2) 主な検査：神経学的検査、CT、MRI、血管造影 3) 主な治療：手術療法、薬物療法、安静療法 リハビリテーション	10	講 義	筆記試験 (担当講師の コマ数に応 じて配点。合 計 100 点満 点で評価)
2. 運動器疾患 1) 主な疾患の病態生理と主な症状 骨折 関節の疾患：変形性膝関節症、股関節症、痛風 骨腫瘍 脊椎の疾患：椎間板ヘルニア 炎症性疾患：骨髄炎 2) 主な検査 X線検査、MRI、関節内視鏡 3) 主な治療 保存療法：ギプス、牽引、手術療法	5		

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕 脳・神経	竹村 信彦 他	医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕 運動器	織田 弘美 他	医学書院
系統看護学講座 専門分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔2〕 病態生理学	田中 越郎	医学書院

疾病論Ⅳ

感覚器・耳鼻咽喉・皮膚・血液・女性生殖器・歯科・口腔系

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 眼疾患 1) 視覚器組織の構造と機能・生理 2) 視覚器の疾患と病態生理 ①水晶体の疾患：白内障 ②視神経障害：緑内障 ③網膜疾患：糖尿病網膜症・加齢性黄斑変性 ④眼表面の疾患：ドライアイ、結膜炎 3) 主な検査：視力検査・細隙灯検査・眼底検査 4) 主な治療：点眼、手術療法、レーザー	4	講 義	筆記試験 (担当講師の コマ数に応 じて配点。合 計 200 点満 点で評価)
2. 耳鼻咽喉疾患 1) 主な疾患の病態生理と主な症状 ・耳の疾患：外耳疾患、鼓膜損傷、中耳炎、メニエール病 ・鼻の疾患：外鼻疾患、副鼻腔炎 ・咽喉頭の疾患 ・腫瘍 2) 主な検査：聴力検査、内視鏡検査、X 線検査 3) 主な治療：薬液噴霧療法、手術療法、放射線療法	4		
3. 皮膚疾患 1) 主な疾患の病態生理と主な症状 ・湿疹・皮膚炎：アトピー性皮膚炎、膠原病 ・物理的障害：熱傷（火傷）、褥瘡 ・悪性腫瘍 ・皮膚感染症 2) 主な検査：アレルギー検査、免疫検査、生検 3) 主な治療：薬物療法、理学的療法、手術療法	4		
4. 女性生殖器疾患 1) 主な疾患の病態生理と主な症状 ・子宮の疾患：子宮筋腫、子宮癌 ・卵巣の疾患：卵巣嚢腫、卵巣癌 ・月経異常 ・更年期障害 ・不妊症と避妊 2) 主な検査：内視鏡検査、CT、造影法 3) 主な治療：洗浄、薬物療法、手術療法	6		

内 容	時間数	授業形態	評 価
5. 血液疾患 1) 主な疾患の病態生理と主な症状 ・赤血球の疾患：鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血、巨赤芽球生貧血、真性多血症 ・白血球の疾患：白血病、骨髄性異形成症候群、無顆粒球症 ・リンパ性疾患：悪性リンパ腫 ・出血性疾患：血小板減少性紫斑病、血友病、DIC ・血栓性疾患 ・異常タンパク血症：多発性骨髄腫 2) 主な検査：骨髄穿刺、骨髄生検、血液検査、凝固時間 3) 主な治療：化学療法、放射線療法、輸血療法、造血幹細胞移植療法	8	講 義	筆記試験 (担当講師の コマ数に応 じて配点。合 計 200 点満 点で評価)
6. 歯・口腔疾患 1) 歯・口腔の構造 ・歯、歯周組織、咀嚼筋、舌、顎関節、口腔粘膜、唾液腺 2) 歯・口腔の機能 ・咀嚼(下顎運動)、口腔感覚(味覚)、唾液分泌、嚥下 3) 歯・口腔の疾患 ・う蝕、歯周病、顎関節症、歯痛、味覚障害、口腔乾燥症、口臭、嚥下障害、誤嚥性肺炎	4		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔13〕眼 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉 成人看護学〔12〕皮膚 成人看護学〔4〕血液・造血器 成人看護学〔9〕女性生殖器 成人看護学〔15〕歯・口腔 系統看護学講座 専門分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔2〕病態生理学	大鹿 哲郎 他 小松 浩子 他 岡山 裕子 他 飯野 京子 他 池田 正 他 青木 春恵 他 田中 越郎	医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院

疾病論Ⅴ

臨床判断技術

ね ら い

症状が起こるメカニズムから異常な状態を考えることで、臨床判断の基礎的能力を養う。

1. 解剖生理・病理の知識を統合し、主症状が起こるメカニズムを知ることができる
2. 臨床判断技術における 4 つのフェーズを知ることができる
3. 臨床判断プロセスを意識して思考を整理しながら、健康状態の変化である「症状」に着目した看護実践ができる

1 単位（15 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 臨床判断技術とは 2. 看護師の臨床判断プロセス 3. 主要症状における看護技術 4. 肺疾患患者の看護 5. 心疾患患者の看護 6. 消化器疾患患者の看護	15	講 義 演 習	レポート・ 提出物

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔2〕病態生理学 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学④ 臨床看護総論	田中 越郎 香春 知永 他	医学書院 医学書院

治療論Ⅰ 薬理学

ね ら い

薬理学は、薬物の生体に対する影響を生体側からみた薬物動態学(吸収、分布、代謝、排泄)と、薬物側からみた薬力学(作用)から成り立つことを理解し、薬物療法の基本的なことや薬の適正使用などについて学ぶ。

1. 種々の薬物名を学び、薬物が生体におよぼす影響を理解する
2. 薬物の作用機序および副作用を理解し、対応する疾患との関連や看護上の注意点について学ぶ
3. 実際の薬物療法における看護のあり方の基本的概念について学ぶ

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
I. 総論 1.薬の基本性質、使用目的、主作用・副作用、作用点 受容体、投与経路、影響する因子、相互作用 2.薬の吸収・分布・代謝・排泄、血中濃度 医薬品の法令、処方箋、添付文書 普通薬、劇薬、麻薬、毒薬 II. 各論 1.抗感染症薬 抗菌作用のしくみ、薬剤耐性 ペニシリン系抗生物質、セフェム系、アミノグリコシド系、テトラサイクリン系、マクロライド系、ニューキノロン系、抗結核薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、性感染症薬 2.抗がん薬 アルキル化薬、代謝拮抗薬、植物アルカロイド薬 性ホルモン拮抗薬 3.免疫治療薬 免疫抑制薬、免疫増強薬 (ヒト免疫グロブリン、インターフェロン、インターロイキン2 など) 4.抗アレルギー薬 H₁受容体拮抗薬、抗アレルギー薬 5.抗炎症薬 非ステロイド性抗炎症薬、ステロイド性抗炎症薬 関節リウマチ薬、通風薬、高尿酸血症薬、偏頭痛薬	30	講 義	筆記試験

内 容	時間数	授業形態	評 価
6.末梢神経作用薬 交感神経作用薬 (アドレナリン作用薬、抗アドレナリン作用薬) 副交感神経作用薬 (コリン作用薬、抗コリン作用薬) 7.中枢神経作用薬 全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬、抗神経薬 抗うつ薬など 8.循環器系作用薬 高血圧薬、狭心症薬、抗不整脈薬、利尿薬、 抗脂質異常症薬 9.呼吸器系作用薬 喘息薬(ステロイド薬、抗アレルギー薬) 鎮咳薬、去痰薬 10.消化器系作用薬 H ₁ 受容体拮抗薬、健胃薬、制吐薬、下剤、止痢薬 駆虫薬 11.生殖器系作用薬 性ホルモン、子宮収縮薬、生活改善薬 12.物質代謝の作用薬 糖尿病薬、抗甲状腺薬、ビタミン(脂溶性、水溶性) 13.皮膚科治療薬、眼科治療薬など 14.消毒薬、漢方薬、補液・輸液剤 15.救急薬(薬物中毒)、その他 16.薬物療法と看護の役割 17.国家試験問題		講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学	吉岡 充弘 他	医学書院

治療論Ⅱ 手術療法

ね ら い

疾病の回復を促進する治療の原理を理解する。

1. 手術療法と麻酔・手術による生体の反応について学ぶ
2. 手術療法を受ける患者についての理解を深める
3. 救急患者の特性の理解と対処の基礎知識について学ぶ

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 手術療法とは	8	講 義	筆記試験 (担当講師の コマ数に応 じて配点。合 計 100 点満 点で評価)
2. 手術侵襲と生体反応			
1) 手術による生体反応とは			
2) 生体反応の発生機序			
3) 生体反応の経過			
4) 生体反応の管理			
5) 輸液・輸血			
3. 麻酔とは	2		
1) 全身麻酔			
2) 局所 (区域) 麻酔	2		
4. 呼吸生理学と気道管理	2		学内演習
5. 術中モニタリング	2		
6. 胃切除術について	8		
1) 手術の方法			
2) 再建術			
3) 患者の管理：術前、術中、術後			
7. 救急救命の基礎	4		
8. 救急患者の特性			
9. 重篤な病態と治療			
1) ショック			
2) 呼吸不全			
3) 循環不全			
10. 心肺蘇生法 (大場)	2		
1) 一次救命			
2) 二次救命			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統的看護学講座 別巻 臨床外科看護総論	矢永 勝彦 他編	医学書院

治療論Ⅲ リハビリテーション

ね ら い

1. リハビリテーションの概念とリハビリテーションの技術を学ぶ
2. 生活の再構築への援助の基本について学ぶ

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. リハビリテーションの概念	15	講 義	筆記試験
2. リハビリテーションの場と方法		G W	GW 発表
1) 障害のレベルに応じた方法			
2) 医学的リハビリテーション			
3) 職業的リハビリテーション			
4) 教育的リハビリテーション			
5) 社会的リハビリテーション			
3. リハビリテーションの対象の理解			
1) 障害者の動向			
2) 障害のレベルとその概念			
3) 障害の受容			
4. 障害のアセスメントの基礎			
1) ボディメカニックスの原理			
2) 運動機能の評価			
5. リハビリテーションの実際			
1) 運動麻痺と機能訓練			
2) ADLに関するリハビリテーション			
3) 言語機能リハビリテーション			
4) 呼吸リハビリテーション			
6. リハビリテーションチーム			
1) チームワークの重要性			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統的看護学講座 別巻 リハビリテーション看護	武田 宜子	医学書院

治療論 IV 臨床栄養学

ね ら い

食物の摂取は健康維持に第一義的な関わりをもっている。患者にとっての食物摂取は、健康回復のための治療の一方法である。

1. 食物に含まれる成分について学ぶ
2. 食物が体内に取り込まれた後の化学変化について学ぶ
3. 食事と健康、食事と疾病の関係について学ぶ
4. 疾病時の食事療法について学び体感する

1 単位（15 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 人間栄養学と看護 2. 栄養状態の評価と判定 3. 栄養素の種類とはたらき 4. 栄養素の消化と吸収 5. ライフステージ別の栄養と食事 1) 妊娠期、授乳期、乳幼児期 2) 学童期、思春期 3) 成人期、高齢期 6. 食生活と疾病の変化 7. 栄養補給法とその選択、臨床栄養 8. 健康づくりと食品・食事・食生活	15	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座専門基礎 人体の構造と機能〔3〕 栄養学 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法	小野 章史 他 足立 香代子 他	医学書院 医学書院

保健医療論

ね ら い

人間の生命の尊厳を基盤とする保健・医療・福祉の概要について学ぶ。

1. 生命とは何かについて学ぶ
2. 医療の体系と機能について学ぶ
3. 現代医療における倫理について学ぶ
3. 健康の概念と疾病の概念、治療の考え方を含む医療観について学ぶ
4. 人間の健康と幸福な生活を守るための社会システムと医療の役割について学ぶ

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 人間の生命について：人間とは、生命とは 2. 医療とは何か 1) 医学と医療 2) 医療のシステムと機能 3) プライマリーヘルスケア 4) 保健・医療・福祉の統合 5) 保健・医療・福祉システム 6) 医療のあり方と医療者の役割 3. 医療と倫理 1) 現代の医療と倫理、生命倫理 2) 脳死と臓器移植、体外受精 3) 遺伝子治療 4. 健康と疾病：健康の概念、疾病の概念、疾病の構造 5. 人間と死 1) 死とは何か 2) 生命維持、安楽死 3) 死を共有する医療 4) 脳死と臓器移植 6. 病状(真実)の告知：癌の告知、死の告知 7. 医療における患者の権利 8. 1) インフォームドコンセント 2) 生命の質(QOL)	15	講 義 G W	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔1〕医療概論 生命倫理への招待 改訂 6 版	康永 秀生 塩野 寛 他	医学書院 南山堂

ねらい

1. 公衆衛生の理念と目的を理解する

3. 地域社会における公衆衛生活動と看護職の役割を理解する

1 単位 (15 時間)

50

内 容	時間数	授業形態	評 価
6. 学校と健康 1) 学校保健活動の展開 2) 特別な支援を必要とする児童への支援	2	講 義 演 習	
7. 地域保健活動の展開（園部） 1) 地域保健法と関係機関・関係職種 （1）保健所と保健センターの役割 2) 成人保健と健康増進 （1）生活習慣病の発症・重症化予防 （2）特定健康診査・特定保健指導	2		
8. 演習 事例を用いた地域の健康課題の把握	2		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
国民衛生の動向	小田 清一 他	厚生労働統計協会
系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔2〕 公衆衛生	神馬 征峰 他	医学書院

社会福祉 I

ね ら い

わが国の社会福祉・社会保障の内容について体系的に学び、各種法律について分析しながら「福祉国家」、「人間らしい生活」のあるべき姿について論考する。

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 医療保障① ～医療保障制度の構造 2. 医療保障② ～健康保険と国民健康保険、高齢者医療制度 3. 医療保障③ ～保険診療のしくみと国民医療費の動向 4. 介護保障① ～介護保険制度の歴史 5. 介護保障② ～介護保険制度の概要 6. 所得保障① ～年金保険制度の概要 7. 所得保障② ～労働保険制度他の制度の概要 8. 公的扶助 ～貧困・低所得者層における生活問題	15	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔3〕 社会保障・社会福祉	福田 素生 他	医学書院

社会福祉Ⅱ

ね ら い

社会福祉・社会保障の動向と医療の関連性について学ぶ。

1 単位（15 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 現代社会の変化と社会福祉・社会保障の動向 2. 公的扶助①～生活保護制度のしくみ 3. 公的扶助② ～低所得層対策と近年の動向 4. 社会福祉の歴史 5. 高齢者福祉と障害者福祉 6. 児童家庭福祉 7. 社会福祉実践と医療・看護の連携	15	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔3〕 社会保障・社会福祉	福田 素生 他	医学書院

関係法規

ね ら い

法の基本的知識と保健・医療・看護における法規について学び、医療者としての業務と責任を自覚する。

2 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. はじめに 1) 私たちの生活と法律 2) 看護と法律	2	講 義	筆記試験
2. 法の基本的知識	2		
3. 健康支援と法律 1) 健康支援に関する法規			
4. 衛生法			
5. 医療法と医療制度 1) 医療法 2) 医療法と医療制度 日本の医療の流れから	2		
6. 医療の提供に関する法律 1) 医療職に関連する法律 (1) 医師法 (2) その他医療チームに関する法律 2) 医療を支えるその他の法律	4		
7. 看護職に関連する法律 1)保健師助産師看護師法 2)看護師の人材確保の促進に関する法律	10		
8. その他の法律	4		
9. 医療現場と感染管理	6		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔4〕 看護関係法令	森山 幹夫	医学書院

専 門 分 野

目 的

看護師としての専門的な知識・技術・態度について学ぶ。さらに、様々な健康段階にある対象者の状況に応じて、必要な看護を判断、選択し、安全で良質な看護を包括的に提供できる基礎的能力を養う。

72 単位（2190 時間）

教 育 内 容	授 業 科 目	単位数	時間数	実施年次
基礎看護学	看護学概論 看護の基礎と看護の変遷	1	30	1 年次
	看護倫理 看護職としての倫理	1	15	1 年次
	方法論Ⅰ 対人関係の基礎	1	30	1 年次
	方法論Ⅱ 看護援助の基礎	1	30	1 年次
	方法論Ⅲ 対象把握の技術	2	45	1 年次
	方法論Ⅳ 療養生活を整える援助技術	2	60	1 年次
	方法論Ⅴ 臨床看護技術	1	30	1 年次
	方法論Ⅵ 診療補助技術	1	30	1 年次
	方法論Ⅶ 看護過程	2	45	1 年次
	・臨地実習 基礎看護学実習Ⅰ 看護としての基本的な日常生活援助	1	45	1 年次
	基礎看護学実習Ⅱ 看護過程に基づく日常生活援助	3	135	1 年次
地域・在宅 看護論	看護論Ⅰ 概論	1	15	1 年次
	看護論Ⅱ 社会資源の活用と家族看護	1	30	2 年次
	看護論Ⅲ 訪問看護の実際と状態別看護	1	30	2 年次
	看護論Ⅳ 在宅看護技術	1	15	2 年次
	看護論Ⅴ 看護過程	1	15	2 年次
	看護論Ⅵ 地域・在宅看護の展望	1	15	3 年次
	・臨地実習 地域・在宅看護論実習Ⅰ 地域で生活している人々の健康支援	2	90	2 年次
	地域・在宅看護論実習Ⅱ 在宅療養者とその家族の看護	2	90	3 年次
成人看護学	成人看護学概論	1	30	1 年次
	方法論Ⅰ 急性期にある人の看護	1	30	2 年次
	方法論Ⅱ リハビリ期にある人の看護	1	30	2 年次
	方法論Ⅲ 慢性期にある人の看護	1	30	2 年次
	方法論Ⅳ 終末期にある人の看護	1	30	2 年次
	方法論Ⅴ 成人看護過程	1	15	2 年次
	・臨地実習 成人・老年看護学実習Ⅰ 急性期にある対象の看護	2	90	2 年次
	成人・老年看護学実習Ⅱ 慢性期にある対象の看護	2	90	2 年次

教 育 内 容	授 業 科 目	単位数	時間数	実施年次
老年看護学 ・臨地実習	老年看護学概論	1	30	1 年次
	方法論Ⅰ 老年者の健康と生活機能を支える看護	1	30	2 年次
	方法論Ⅱ 老年者の健康課題と看護	1	15	2 年次
	方法論Ⅲ 老年看護過程	1	30	2 年次
	成人・老年看護学実習Ⅲ健康課題をもつ老年者の看護	3	135	3 年次
精神看護学 ・臨地実習	精神看護学概論	1	30	2 年次
	方法論Ⅰ 精神疾患の理解	1	15	2 年次
	方法論Ⅱ 精神を障害された人の看護	1	30	2 年次
	方法論Ⅲ 精神看護過程	1	30	2 年次
	精神看護学実習	2	90	3 年次
小児看護学 ・臨地実習	小児看護学概論	2	30	2 年次
	方法論Ⅰ 小児期に多い疾患の理解	2	15	2 年次
	方法論Ⅱ 小児の健康問題と看護	2	30	2 年次
	方法論Ⅲ 小児における看護技術	2	15	2 年次
	小児看護学実習 1 健康な子どもの看護 2 健康問題をもつ小児の看護	2	90	3 年次
母性看護学 ・臨地実習	母性看護学概論	1	30	2 年次
	方法論Ⅰ 周産期における女性の看護	1	30	2 年次
	方法論Ⅱ 周産期における異常と看護・母性看護の展開方法	1	15	2 年次
	方法論Ⅲ 母性における看護技術	1	15	3 年次
	母性看護学実習	2	90	3 年次
看護の統合と 実践 ・臨地実習	看護業務と医療安全	2	30	3 年次
	看護と研究	1	15	3 年次
	看護と研究演習 看護ゼミナール	2	60	3 年次
	看護管理	1	15	3 年次
	災害看護・国際協力	1	15	3 年次
	臨床看護の実践Ⅰ 領域を横断した事例学習	1	15	3 年次
	臨床看護の実践Ⅱ 看護の知識・技術の統合	1	15	3 年次
	統合実習	2	90	3 年次

基 礎 看 護 学

現代の日本は少子高齢化が加速し、人口構造や疾病構造など、社会や医療の変化に伴い看護師の役割や活躍の場が複雑多様化している。それに伴い、看護師には人々の価値観の多様化における様々な倫理的問題に対応でき、質の高い援助を提供するニーズが高まっている。看護実践の場において、状況を適切に判断し行動する能力や、地域包括ケアシステムの推進による医療機関や多職種間の連携の活発化におけるコミュニケーション能力、急速な ICT 技術の発展に伴う医療現場での ICT 技術の導入に対応できる能力が求められている。

これらに対応できる看護師の育成を目指し、基礎看護学では、看護学を学ぶ上での導入部として、看護学の歴史や制度を知り、看護の主要概念や看護理論、看護倫理について学ぶ。また、看護の対象である人間や人間の生活を理解し、生活を支えるための援助技術の基本について学ぶ。そのためには、基礎的技術や態度を身につけ、知識の向上とともに人間や生活に興味・関心を持ち、洞察力や感性を磨く必要性について理解することが大切である。

目 的

看護の概念と人間や人間の生活を理解し、看護の役割について考え、各看護学に共通する看護実践の基礎について学ぶ。

目 標

1. 看護の概念や看護の対象である人間を理解する
2. 保健医療福祉システムにおける看護の役割を知る
3. 専門職業人としての態度を身につけ、倫理に基づいた行動の必要性について理解する
4. 対象を理解するためのコミュニケーションの基本について理解する
5. 科学的根拠に基づいた、安全・安楽な日常生活援助技術について学ぶ

12 単位（315 時間） 実習 4 単位(180 時間)

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
看護学概論 看護の基礎と看護の変遷	1.看護学の成り立ちと定義 2.看護の変遷 3.代表的な看護理論 4.看護の対象としての人間 5.総合保健医療の中での看護の役割 6.看護の専門性 7.看護職の養成	1	30	1 年次
看護倫理 看護職としての倫理	1.看護職の法的責任と倫理 2.倫理的問題への取り組み方	1	15	1 年次

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
方法論Ⅰ 対人関係の基礎	1.人間関係の基礎 2.コミュニケーションの基本的知識 3.コミュニケーション技法 4.集団でのコミュニケーション 5.看護活動とコミュニケーション 6.看護理論とコミュニケーション 7.医療におけるコミュニケーション 8.看護場面から探るコミュニケーション 9.医療・看護場面におけるコミュニケーションの実際	1	30	1 年次
方法論Ⅱ 看護援助の基礎	1.看護技術の概念 2.看護技術と安全 3.感染予防 4.環境調整	1 (30)	4 4 10 12	1 年次
方法論Ⅲ 対象把握の技術	1.フィジカルアセスメント 2.メンタルアセスメント 3.社会的状況に関するアセスメント 4.観察・記録・報告	2 (45)	35 10	1 年次
方法論Ⅳ 療養生活を整える援助技術	1.栄養と食事 2.排泄 3.活動と休息 4.清潔・衣生活 5.安楽	2 (60)	10 12 12 22 4	1 年次
方法論Ⅴ 臨床看護技術	1.設定事例に応じた基礎看護技術の実際	1	30	1 年次
方法論Ⅵ 診療補助技術	1.診療に伴う援助技術 2.与薬の援助 3.検査に伴う援助技術	1 (30)	8 14 8	1 年次
方法論Ⅶ 看護過程	1.看護過程とは 2.看護過程の構成要素 3.看護過程の展開	2	45	1 年次
臨地実習 基礎看護学実習Ⅰ	看護としての基本的な日常生活援助	1	45	1 年次
基礎看護学実習Ⅱ	看護過程に基づく日常生活援助	3	135	1 年次

看護学概論 看護の基礎と看護の変遷

目 標

1. 看護の概念・社会の変遷と看護の発展を学び、看護の本質・機能を理解する
2. 看護の対象である人間を統合的に理解する
3. 健康の概念、健康の要因、国民の健康状態を理解し看護職の役割を理解する
4. 現代の看護を理解し、専門職業人としての活動と保健医療福祉システムの中で看護の果たすべき役割や看護活動を理解する
5. 自己の看護観を確立していくための基礎知識・姿勢について理解する

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.看護学の成り立ちと定義 1) 看護とは何か (1)看護の原点 (2)ナイチンゲールの残したもの (3)看護の定義の変遷 (4)ヘンダーソンの考え方 2) 看護学とは何か (1)看護学とは実践の科学である (2)看護学を構成する主要概念 (3)看護を理解するために用いられる諸理論 2.看護の変遷 1) 宗教と看護 2) 戦争と看護 3) 宗教改革と産業革命 4) ナイチンゲールの功績と近代看護 5) アメリカにおける看護の発展 6) わが国における看護のあゆみ 7) 社会の変化と看護教育の発展 3.代表的な看護理論 1) 看護理論とは 2) 主な理論家の看護概念 4.看護の対象としての人間 1) 人間とは何か (1)人間と動物の違い (2)生きるということ (3)人間の成長発達	30	講 義 GW	筆記試験 レポート

内 容	時間数	授業形態	評 価
2) 健康の捉え方と国民の健康 (1)健康・障害とは (2)国民の健康状態 3) 看護の対象としての家族 4) 看護の対象としての社会 5.総合保健医療の中での看護の役割 1) 日本の医療システム 2) 看護の役割と責任 6.看護の専門性 1) 専門職とは 2) 職能団体の果たすべき役割 7.看護職の養成			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 基礎看護学① 看護学概論 看護覚書 看護の基本となるもの 看護者の基本的責務	茂野 香おる 他 ナイチンゲール V・ヘンダーソン 日本看護協会監修	医学書院 現代社 日本看護協会出版会 日本看護協会出版会

備考

試験は筆記試験とレポートによる ABCDF の 5 段階評価とし、F 評価は単位不認定とする。

※ この授業は実務教育科目である。

(看護師として看護の概念、看護師の役割について教授する)

看護倫理 看護職としての倫理

目 標

1. 生命の尊厳を基盤に看護倫理、職業倫理を学び、看護者として求められる倫理的責任と倫理的行動について理解する
2. 倫理原則や倫理規定をもとに、法的な看護師の位置づけと法的責任を理解する
3. 看護場面で遭遇する倫理的問題について、解決方法を考える力を養う

1 単位（15 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.看護職の法的責任と倫理 1) 看護の基本法 2) 倫理原則 3) ケアの倫理 4) 看護者の倫理綱領 5) 臨床倫理 6) 研究倫理 2.倫理的問題への取り組み方 1) 倫理的態度とは 2) 患者に寄り添う看護 3) 倫理的事例を通して考える	15	講 義 GW	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 基礎看護学① 看護学概論	茂野 香おる 他	医学書院
系統看護学講座 別巻 看護倫理	宮坂 道夫 他	医学書院
看護者の基本的責務	日本看護協会監修	日本看護協会出版会

備考

試験は筆記試験による ABCDF の 5 段階評価とし、F 評価は単位不認定とする。

※ この授業は実務教育科目である。

（看護師として、看護者として求められる倫理について教授する）

基礎看護学方法論Ⅰ 対人関係の基礎

目 標

1. コミュニケーションの基本を理解できる
2. 集団でのコミュニケーション、討議の基本姿勢について理解できる
3. 自己や他者を理解し、人間関係の築き方が分かる
4. 人間（対人）関係を円滑にするコミュニケーション技法を身につけることができる

1 単位(30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. はじめに 1) 人間(対人)関係はどのように築かれていくのか 2) 看護者がコミュニケーションの基本的知識と技法を学ぶ意味 2. コミュニケーションの基本的な知識 3. コミュニケーション技法 1) 「きく」・「はなす」 2) 「質問する」・「たずねる」 3) 「伝える」 4. 集団でのコミュニケーション 1) 集団とは 2) 集団の力を発揮させるためには 5. 看護活動とコミュニケーション 1) 看護者にとってのコミュニケーション 2) コミュニケーションセンスとは 6. 看護理論とコミュニケーション 1) ケアリングとは 2) 人間関係に注目した理論家 7. 医療におけるコミュニケーション 1) 医療現場 2) 他職種間 3) 患者・家族 8. 看護場面から探るコミュニケーション 1) 安全・安楽な看護実践の場面から 2) 患者の不安を読み取り、受け止める場面から 3) プロセスレコード 9. 医療・看護場面におけるコミュニケーションの実際	30	講 義 演 習	筆記試験 レポート 学習態度 (GW の参加や演習時の態度)

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ	茂野 香おる 他	医学書院

基礎看護学方法論Ⅱ 看護援助の基礎

目 標

1. 看護における技術の考え方を理解する
2. 安全・安楽が看護技術の大前提となることが理解できる
3. 感染及び院内感染発生の要因を理解し、その防御のための知識を習得する事ができる
4. 感染防御のための援助を実践することができる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.看護技術の概念 1) 技術とは 2) 看護技術の特徴 3) 看護技術の範囲 4) 看護技術を適切に実践するための要素	4	講 義 実技演習	筆記試験 レポート 学習態度 (提出物の期限、演習時の態度、グループワーク時の積極性など)
2.看護技術と安全 1) 看護における安全の意義 2) 安全確保の技術 誤薬防止、チューブ類の事故防止、患者誤認防止、 転倒・転落防止、薬剤・放射線暴露防止	4		
3.感染予防 1) 感染防御実施の過程 2) 感染防御に必要な基礎知識 3) 滅菌と消毒 4) 感染予防に関するアセスメント 5) 感染防御のための援助方法	10		
4. 環境調整 1) 環境とは 2) 療養生活の環境 3) 病室の環境とアセスメントと調整 4) 環境整備の基本的援助 環境整備、ベッドメイキング、寝具交換	12		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術	茂野 香おる 他 任 和子 他 医療情報科学研究所	医学書院 医学書院 メディックメディア

目標

1. 人間の身体の状態・生命徴候を把握するための意義を理解できる
2. 看護における健康状態を評価する意味、観察方法を理解する

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.フィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントの目的 2) 呼吸器系のアセスメント 3) 循環器系のアセスメント 4) 腹部・消化器系のアセスメント 5) 筋・骨格系のアセスメント 6) 神経系のアセスメント 7) 外皮系のアセスメント 8) 頭頸部のアセスメント 9) 感覚器系のアセスメント 10) バイタルサイン	35	講 義 GW 実技演習	筆記試験 実技試験 レポート 学習態度 (提出物の期限、演習時の態度、グループワーク時の積極性など)
2.メンタルアセスメント 3.社会的状況に関するアセスメント 4.観察、記録、報告 1) 観察 (1) 観察とは (2) 看護における観察 (3) 観察の視点と内容 (4) 看護観察における思考の過程 2) 記録、報告 (1) 看護記録とは (2) 記載・管理における留意点 (3) 看護記録の構成 (4) 報告の目的と留意点	10		

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術 I 看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント	茂野 香おる 他 医療情報科学研究所	医学書院 メディックメディア

基礎看護学方法論Ⅳ 療養生活を整える援助技術

目 標

1. 対象の健康時の状態に近づけるための日常生活援助の必要性を理解する
2. 科学的根拠にもとづいて看護が実践できる基礎的能力を習得する
3. 対象にとって安全かつ安楽な援助技術を実践する必要性を理解する

2 単位 (60 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 栄養と食事 1) 食事の意義と重要性 2) 栄養状態のアセスメント 3) 食欲・食に対する認識のアセスメント 4) 医療施設で提供される食事の種類と形態 5) 食事摂取の介助 6) 摂食・嚥下訓練 7) 非経口的栄養摂取の援助 (経管栄養法、中心静脈栄養法)	10	講 義 GW 実技演習	筆記試験 実技試験 レポート 学習態度 (提出物の期限、演習時の態度、グループワーク時の積極性など)
2. 排泄 1) 排泄の意義と重要性 2) 排尿と排便 3) 排泄のアセスメント 4) 排泄援助の実際 (1) 便器・尿器、オムツによる援助	12		
3. 活動と休息 1) 活動と休息の意義 2) 健康生活と活動 3) 健康生活と睡眠 4) 体位変換の援助	12		
4. 清潔・衣生活 1) 健康生活における清潔の意義 2) 健康障害時の清潔 3) 清潔の援助に必要な基礎知識 4) 清潔援助の実際 (1) 口腔ケア (2) 全身清拭 (3) 洗髪 (4) 整容 (5) 足浴 (6) 陰部洗浄	22		

内 容	時間数	授業形態	評 価
5) 衣生活 (1)着脱の基本的援助 (2)点滴留置中の寝衣交換 5.安楽 1) 看護における安楽の意義 2) 体位保持 (ポジショニング) 3) 罨法 4) リラクセーション	4		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術	任 和子 他 医療情報科学研究所	医学書院 メディックメディア

基礎看護学方法論Ⅴ 臨床看護技術

目 的

個別性をふまえて安全・安楽な基礎看護技術を習得する基礎的能力を養う。

目 標

1. 科学的根拠に基づいて安全・安楽な援助が実践できる
2. 対象に合せた援助の工夫ができる
3. 自己の実践能力を振り返ることができる

1 単位 30 時間

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 設定事例に応じた基礎看護技術の実践 1) オリエンテーション 2) グループワーク（提示された事例の検討） 3) シミュレーション（事例に応じた援助の実際） 清潔援助、リネン・寝衣交換、環境整備、 バイタルサインの測定などの療養生活を整える技術 や対象把握の技術	30	講 義 GW 実技演習	筆記試験 レポート 学習態度 (提出物の 期限、演習 時の態度、 グループ ワーク時 の積極性 など)

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野		
基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ	茂野 香おる 他	医学書院
基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ	任 和子 他	医学書院
基礎看護学④ 臨床看護総論	香春 知永 他	医学書院
看護がみえる Vol.1 基礎看護技術	医療情報科学研究所	メディックメディア

目標

1. 診療・検査に伴う看護師の責任を理解する
2. 診療・検査に伴う看護師の役割を理解する
3. 安全に診療補助技術を実践できるための基礎的知識及び技術が習得できる

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.診療に伴う援助技術	8	講 義	筆記試験
1) 診療補助業務と看護師の法的責任・役割		実技演習	レポート
2) 診療補助に伴う援助技術			学習態度
(1)創傷管理 (2)中心静脈カテーテルの消毒			(提出物の期
(3)包帯法 (4)止血法			限、演習時の
2.与薬の援助	14		態度、グルー
1) 与薬に際しての看護師の責任と役割			プワーク時
2) 与薬上の原則と注意事項			の積極性な
(1)正しい与薬 (2)薬剤の保管・管理 (3)副作用の観察			ど)
3) 与薬の方法			
(1)経口与薬 (2)外用薬・経皮的与薬 (3)直腸内与薬			
(4)注射 (皮下注射、皮内注射、筋肉内注射、静脈内			
注射、経静脈栄養法)			
(5)輸血の援助と方法 (6)酸素療法、吸入、吸引			
4) 麻薬・インシュリン・抗生物質投与時の観察点			
3.検査に伴う援助技術	8		
1) 検査時の看護師の役割と患者への援助			
2) 検査の種類			
(1)検体検査 (血液、尿、便、喀痰) 採血演習			
(2)穿刺液の検査			
(3)生体検査(X線検査、CT、MRI、超音波、内視鏡、			
心電図、核医学)			

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ	任 和子 他	医学書院
看護がみえる Vol.1 基礎看護技術	医療情報科学研究所	メディックメディア
看護がみえる Vol.2 臨床看護技術	医療情報科学研究所	メディックメディア

基礎看護学方法論Ⅶ 看護過程

目 的

個別的な看護を実践するための科学的思考プロセスを理解する。

目 標

1. 看護過程の構成要素がわかる
2. アセスメントの方法・過程がわかる
3. 看護問題を確定する過程がわかる
4. 看護計画の立案の方法がわかる

2 単位（45 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 看護過程とは 2. 看護過程の構成要素 1) アセスメント (1) 情報の収集 (2) 情報の整理 (3) 情報の解釈・分析 2) 看護問題の明確化 (1) 統合 (2) 看護問題の明確化 (3) 優先順位の決定 3) 計画 (1) 看護目標 (2) 短期目標 (3) 具体策 4) 実施 5) 評価 3. 看護過程の展開の実際	45	講 義 GW	看護過程を展開した提出物 学習態度 (提出物の期限、グループワーク時の積極性など)

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術 I 看護がみえる Vol.4 看護過程の展開	茂野 香おる 他 医療情報科学研究所	医学書院 メディックメディア

試験は筆記試験とレポートによる ABCDF の 5 段階評価とし、F 評価は単位不認定とする。

※ この授業は実務教育科目である。

(看護師とした、看護を実践するための科学的思考プロセスについて教授する)

基礎看護学実習

目 的

看護の対象となる人間の生活を理解し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を養う。

目 標

1. 基本的欲求をもち、生活する人間を理解する
2. 日常生活を整える看護の必要性が理解できる
3. 安全・安楽な日常生活の援助が実践できる
4. 専門職業人としての基本的な態度を身につけることができる

4 単位（180 時間）

区 分	単位	実習の目的	実習目標
	時間数		
基礎看護学実習Ⅰ 看護としての基本的 な日常生活援助	1 (45)	・対象の生活環境と療養生活 について理解し、対象を尊重 した看護の実践を学ぶ	1. 入院による環境と生活の変 化を知ることができる 2. 対象に関心を寄せコミュニ ケーションをはかることがで きる 3. 対象に合わせた日常生活援 助の必要性が理解できる 4. 看護学生として責任をもっ た行動がとれる
基礎看護学実習Ⅱ 看護過程に基づく 日常生活援助	3 (135)	・対象の日常生活を理解し、 科学的根拠に基づいた安 全・安楽な日常生活援助の実 践について学ぶ	1. 対象に関心を寄せ、人間関係 を構築することができる 2. 対象の日常生活を理解する ことができる 3. 対象を尊重しながら日常生 活援助を実践することができ る 4. 看護学生として主体的に責 任のある行動がとれる

地域・在宅看護論

人びとの暮らしや地域のあり方が多様化している中、地域に生きる一人ひとりが尊重され、多様な経路で社会とつながりをもち共生することで、その生きる力や可能性を最大限に発揮できるような地域社会の構築が推進されている。

地域・在宅看護における看護は、地域で生活するすべての人びとを対象に、健康を支え、可能な限り住み慣れた地域でその人が望むその人らしい生活を送ることができ、その人が望む最期を迎えることができるよう支えるものである。そのため、人びとが生活する地域という環境において、その人の「生きること」を支えることを理解する必要がある。また、諸外国の地域・在宅看護に関する背景や対策について知り、わが国の社会情勢の変化や医療の発展に伴う人々のニーズを把握し、地域・在宅看護活動を想像していく基本的能力を身につける必要がある。

目 的

地域で生活している人びとが望む生活の質の向上をめざし、地域共生社会における多職種連携・多職種チームで協働し、生活を支援する地域・在宅看護を学ぶ。

目 標

1. 地域・在宅看護の概念を理解する
2. 地域における生活を支える看護について理解する
3. 地域・在宅看護の目的と役割を理解する
4. 地域・在宅看護にかかわる制度と活用について理解する
5. 家族看護の概念と家族看護の方法について理解する
6. 地域・在宅における看護の方法と基本的技術を習得する
7. 多職種連携・多職種チームでの協働の必要性について理解する
8. 地域・在宅看護のあり方を創造していく必要性を理解する

6 単位（120 時間） 実習 4 単位(180 時間)

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
地域・在宅看護論Ⅰ 概論	1.人びとの生活と地域・在宅看護 2.生活の基盤としての地域の理解 3.地域・在宅看護の対象 4.地域における生活を支える看護	1	15	1 年次
地域・在宅看護論Ⅱ 社会資源の活用 家族看護	1.地域・在宅看護実践の場と連携 2.地域・在宅看護にかかわる制度と その活用 3.家族看護の概念 4.家族看護の方法	1	30	2 年次
地域・在宅看護論Ⅲ 訪問看護の実際 状態別看護	1.訪問看護の制度 2.訪問看護の実際 3.訪問看護の記録 4.地域・在宅における時期別看護 5.地域・在宅における状態別看護 6.地域・在宅における終末期看護 7.多職種連携・多職種チームでの協働	1	30	2 年次
地域・在宅看護論Ⅳ 在宅看護技術	1.生活を支える看護技術 2.地域・在宅における医療管理	1	15	2 年次
地域・在宅看護論Ⅴ 看護過程（演習）	1.地域・在宅看護における看護過程 2.地域・在宅看護過程の展開方法	1	15	2 年次
地域・在宅看護論Ⅵ 地域・在宅看護 の展望	1.地域・在宅における安全をまもる 看護 2.諸外国での地域・在宅看護の 取り組み 3.地域・在宅看護活動の創造	1	15	3 年次
臨地実習				
地域・在宅看護論実習Ⅰ	地域で生活している人々の健康支援	2	90	2 年次
地域・在宅看護論実習Ⅱ	在宅療養者とその家族の看護	2	90	3 年次

地域・在宅看護論Ⅰ 概論

目 的

1. 人々の生活と地域・在宅看護の概要を学ぶ
2. 地域における生活を支える看護について学ぶ

目 標

1. 生活の基盤としての地域を理解する
2. 地域・在宅看護の対象を理解する
3. 地域・在宅看護の目的と役割について理解する
4. 地域における生活を支える看護を理解する

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 人びとの生活と地域・在宅看護 1) 人びとの生活の理解 (1) 生活と健康の関係 (2) 健康の多様性 2) 地域・在宅看護の基盤となる考え方 (1) 地域・在宅看護の実践の場 (2) 地域・在宅看護の対象 3) 地域・在宅看護に求められる役割 (1) 予防とヘルスリテラシーの向上 (2) セルフケア力を引き出す支援 (3) 尊厳をまもり意思を尊重した生活の支援	4	講 義 演 習	筆記試験
2. 生活の基盤としての地域の理解 1) 人びとが生活する地域の多様性 2) 生活と地域を理解するための考え方 (1) システム理論 (2) システム思考 3) 地域包括ケアシステム (1) 地域包括ケアシステムの定義 (2) 地域支援事業	4	講 義 演 習	

内 容	時間数	授業形態	評 価
3. 地域・在宅看護の対象 1) 地域・在宅看護の対象者 (1) 地域による多様性 (2) ライフステージによる多様性 ①小児期の対象者 ②成人期の対象者 ③老年期の対象者 (3) 健康レベルの多様性 2) 地域に暮らす対象者の理解と看護	2	講 義	
4. 地域における生活を支える看護 1) 生活を支える地域・在宅看護 2) 生活の環境を整える看護 (1) 生活に関連する環境 (2) 看護師に求められる態度・知識・姿勢 3) 看護の対象と提供方法 (1) 健康に対する人びとのニーズ 4) 地域における家族への看護 5) 地域におけるライフステージに応じた看護 (1) ライフステージによる健康課題と予防 (2) 疾病とライフステージ 6) 地域での生活におけるリスクの理解 (1) 生活におけるリスクの種類 (2) 安全に生活を継続するための援助 7) 地域での生活における災害対策	6	講 義	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤	河原 加代子 他	医学書院
系統看護学講座 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践	河原 加代子 他	医学書院
写真でわかる訪問看護 アドバンス		インターメディカ

目的

1. 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用方法を学ぶ
2. 家族看護の概念と家族の状況をとらえる視点と家族看護の基本を学ぶ

1. 地域・在宅看護実践の場と連携について理解する
2. 介護保険制度の目的と構造を理解する
3. 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用について理解する
4. 家族看護の概念を理解する
5. 家族看護の方法について理解する

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 地域・在宅看護実践の場と連携	4	講 義	筆記試験 レポート
1) 地域・在宅看護の実践の場 (1) 居宅 (2) 通所 (3) 通所サービス (4) 短期入所サービス (5) 複合型サービス (6) 施設サービス (7) 医療機関 (8) 地域			
2) 地域・在宅看護における多職種連携 (1) 医療専門職との連携 (2) 福祉専門職との連携 (3) 介護支援専門員との連携	2		
2. 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	10	講 義 演 習	
1) 介護保険制度			
2) 医療保険制度			
3) 医療提供体制			
4) 訪問看護の制度			
5) 地域保健にかかわる法制度			
6) 高齢者に関する法制度			
7) 障害者・難病に関する法制度			
8) 公費負担医療に関する法制度			
9) 権利保障に関連する制度			

内 容	時間数	授業形態	評 価
3. 家族看護の概念 1) 家族看護とは 2) 看護の対象としての家族 3) 健康問題と家族 4) 家族看護の考え方 4. 家族看護の方法 1) 家族に関連した理論 2) 家族看護過程の展開 (1)情報収集 (2)アセスメント (3)計画 (4)家族看護方法 (5)評価	14	講 義 演 習	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤	河原 加代子 他	医学書院
系統看護学講座 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践	河原 加代子 他	医学書院
写真でわかる訪問看護 アドバンス		インターメディカ

地域・在宅看護論Ⅲ 訪問看護の実際・状態別看護

目 的

1. 訪問看護に必要な知識、技術、態度を学ぶ

目 標

1. 訪問看護の活動と特性を理解する
2. 訪問看護を開始するまでの準備を理解する
3. 訪問看護の実際の過程について理解する
4. 地域・在宅における時期別・状態別看護を理解する
5. 多職種連携・多職種チームでの協働を理解する

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 訪問看護の制度 1) 訪問看護の歴史 2) 訪問看護の対象者の特徴 3) 訪問看護の利用者と訪問回数 4) 訪問看護ステーションに関する規程 5) 訪問看護の利用までの手順 6) 訪問看護の費用	2	講 義	筆記試験
2. 訪問看護の実際 1) 訪問看護における看護過程の特徴と実際 (1)情報収集 (2)アセスメント (3)計画立案 (4)実施・評価	10	講 義 演 習	
3. 訪問看護の記録 1) 訪問看護記録の意義 2) 訪問看護で使用する記録 3) 訪問看護記録を記入するときの留意点			

内 容	時間数	授業形態	評 価
4. 地域・在宅における時期別看護 1) 健康な時期の看護 2) 外来受診期における看護 3) 入院時の看護 4) 在宅療養準備期・移行期・安定期の看護 5) 急性増悪期の看護	2	講 義	筆記試験
5. 地域・在宅における状態別看護 1) 医療的ケア児 2) 神経難病 3) 脳血管疾患 4) 精神疾患 5) 認知症	4	講 義	
6. 地域・在宅における終末期の看護 1) 終末期の療養者の看取りの支援 2) 終末期前期・中期・後期の看護 3) 在宅療養終了時の看護	2		
7. 多職種連携・多職種チームでの協働 1) 事例を用いての多職種間討議	2		
	8	講 義 演 習	レポート

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤	河原 加代子 他	医学書院
系統看護学講座 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践	河原 加代子 他	医学書院
写真でわかる訪問看護 アドバンス		インターメディカ

目的

- ## 目標

- 1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 生活を支える看護技術 1) 生活の場で看護をするための心構え 2) セルフケアを支える対話・コミュニケーション (1) 対象者と看護師のパートナーシップ (2) 対象者と看護師の対話・コミュニケーション 3) 地域・在宅看護における家族を支える看護 4) 療養環境調整に関する地域・在宅技術 5) 活動・休息に関する地域・在宅看護技術 (1) 移動補助用具の種類を選択と使用 (2) ノーリフトケア 6) 食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術 (1) 経口摂取の援助 (2) 経管栄養法 (3) 在宅中心静脈栄養法 7) 清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術 8) 呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術 9) 与薬に関する地域・在宅看護技術 (1) 薬物療法 (2) 化学療法・放射線療法 10) 地域・在宅における感染管理 11) 排泄に関する地域・在宅看護技術 (1) 排泄補助用具の種類を選択と使用 (2) ストーマケア用品の種類を選択と使用 (3) 尿道カテーテル管理	10	講義 演習	筆記試験 レポート
	2	講義 演習	

内 容	時間数	授業形態	評 価
2. 地域・在宅看護における医療管理	2	講 義 演 習	筆記試験
1) 創傷管理に関する地域・在宅看護技術			
(1) テープ類による皮膚トラブルの予防とケア			
(2) 褥瘡の予防とケア			
(3) スキンケアの予防とケア			
2) 人工呼吸療法（臨床工学技士学科）	2	講 義 演 習	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤	河原 加代子 他	医学書院
系統看護学講座 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践	河原 加代子 他	医学書院
写真でわかる訪問看護 アドバンス		インターメディカ

地域・在宅看護論Ⅴ 看護過程

目 的

1. 地域・在宅看護における看護過程の基本を学ぶ

目 標

1. 事例をとおして地域・在宅看護の特性をふまえた地域・在宅看護過程の展開方法を理解する

1 単位（15 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 地域・在宅看護における看護過程 1) 対象者の「つよみ」に着眼 2) 多様な生活と価値観 3) 生活を支える制度・支援体制とケアマネジメント 2. 地域・在宅看護過程の展開方法 1) 地域・在宅看護過程の特徴 2) 情報収集とアセスメント 3) 看護目標の設定・計画	16	講 義 演 習	筆記試験 レポート

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 地域・在宅看護論①② 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実践 写真でわかる訪問看護 アドバンス	河原 加代子 他	医学書院 インターメディカ

地域・在宅看護論Ⅵ 地域・在宅看護の展望

目 的

1. 地域・在宅で生活する一人ひとりが尊重され安全に暮らすための視点について学ぶ
2. 諸外国の地域・在宅看護に関する取り組みについて学ぶ
3. 地域・在宅看護活動の創造について学ぶ

目 標

1. 生活の場での必要な安全対策と事故防止の知識について理解する
2. 諸外国の保健医療福祉に関する取り組みと課題について理解する
3. 地域・在宅看護のあり方を創造していく必要性を理解する

1 単位（15 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 地域・在宅看護における安全をまもる看護 1) 療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策 (1) 転倒・転落 (2) 溺水 (3) 火災 (4) 熱中症 (5) 誤嚥 (6) 医療機器のトラブル (7) 虐待 2) 地域・在宅看護実践におけるリスクマネジメント 3) 看護師への暴力・ハラスメント	4	講 義	終講試験 レポート
2. 諸外国での地域・在宅看護の取り組み	4	講 義 演 習	
3. 地域・在宅看護活動の創造	8	講 義 演 習	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 地域・在宅看護論①② 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実践	河原 加代子 他	医学書院
系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 写真でわかる訪問看護 アドバンス	神馬 征峰 他	医学書院 インターメディカ

地域・在宅看護論実習

目 的

地域で生活しているさまざまな健康レベルの人びとを対象に、可能な限り住み慣れた地域でその人らしい生活を送ることができるよう支援する看護の実際を学ぶ。

目 標

1. 地域で生活している人びとの健康ニーズが理解できる
2. 地域における保健福祉施設の機能および保健福祉サービスの実際が理解できる
3. 地域における健康の保持増進や疾病予防のための各専門職種の役割を理解できる
4. 在宅療養者とその家族への療養支援の実際がわかる
5. 保健医療福祉の各専門職種が相互に連携をはかる必要性について理解できる

4 単位（180 時間）

区 分	単位	実習の目的	実習目標
	時間数		
地域・在宅看護論実習Ⅰ 地域で生活している 人びとの健康支援	2 (90)	・地域で生活している人びとの健康ニーズと健康支援の実際を学び、あらゆる対象あらゆる場に看護が必要であることを理解する。また、地域における健康の保持増進、疾病予防のための保健福祉サービスの実際と各専門職種の役割を学ぶ。	1. 地域で生活している人びとの健康ニーズが理解できる 2. 地域における保健福祉施設の機能および保健福祉サービスの実際が理解できる 3. 地域における健康の保持増進や疾病予防のための各専門職種の役割を理解できる
地域・在宅看護論実習Ⅱ 在宅療養者とその家族の看護	2 (90)	・在宅療養者とその家族の看護ニーズを把握し、在宅看護が実践できる基礎的能力を養う。また、地域看護における各専門職種の役割と多職種間連携の実際を学ぶ。	1. 在宅療養者とその家族の生活様式と療養支援の実際がわかる 2. 地域・在宅における保健医療福祉施設の機能及び各専門職種の役割を理解し、相互に連携をはかる必要性について理解できる

成人看護学

成人期は、人生の中で最も長く充実した時期であり、身体的・精神的・社会的な成長発達の変化が著しい。社会的・経済的に中心的な存在であり、職業生活・家庭生活での人間関係においても多様な役割を担っている。そのため、成人期にある人の健康状態が家族や周囲の人に及ぼす影響は大きい。一方で、成人期にある人は自立・自律した存在であり健康の保持・増進のために自ら努力する能力を持っている。

近年、疾病構造における悪性新生物や生活習慣病がもたらす疾患の増加、また少子・高齢への伸展から生産人口である成人期が減少し、生産人口の減少に伴い、高齢者の定年制度の延長という社会状況にあり、入院施設における高齢者の割合が増加している。医療の場においてもますます高度化が進み、ハイリスク患者の治療や低侵襲治療、ICT の発展による遠隔地との治療の連携が進んできている。また、自然災害の増加や、2020 年には経験したことのないウィルスの蔓延、ジェンダーの平等における社会の広がりなど、様々な複雑性や多様性に対応するための看護の基本的な考え方や方法を学ぶことが重要である。

成人看護において看護者は、健康課題の解決を助ける教育的・相談的役割や発達課題達成への援助、健康管理のためのセルフケア能力の助長といった役割をもつ。成人看護学は成人期にある人々を対象とした看護学であるが、超高齢社会において、高齢者の健康障害を区分することは難しい。そのため、成人看護学では成人や高齢者、その家族を対象とした看護の基盤となる考え方や理論、援助方法を学習し、健康上の課題や特徴から健康の保持増進、疾病予防を踏まえ、社会復帰・自立・自律に向けた適応過程を学んでいく必要がある。

目 的

対象とその家族の特徴と健康の維持・増進、疾病の予防の重要性を理解し、健康レベルに応じた課題について考え、看護を実践できる基礎を学ぶ。

目 標

1. 対象を身体的・精神的・社会的・霊的側面から統合的に理解する
2. 対象の生活と健康課題について理解する
3. 対象の疾病の動向を学び、健康に影響を及ぼす諸因子を知り、疾病の予防と健康教育の方法が理解できる
4. 対象とその家族に対して、健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的知識と技術を学ぶ
5. 保健医療福祉チームの一員として他職種との連携・協働の必要性和看護の役割が理解できる

6 単位 (165 時間) 実習 4 単位 (180 時間)

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
成人看護学概論	1.成人と生活 2.生活と健康 3.成人への看護アプローチの基本 4.成人看護における倫理的判断と意思決定支援	1	30	1 年次

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
	5.成人の健康レベルや状態に対応した看護 6.ヘルスプロモーションと看護 7.健康バランスの構成要素 8.成人に特徴的な健康問題の要因とその予防 9.新たな治療法・医療処置の開発・普及 10.新たな治療法や医療処置を受ける患者・家族の看護			
方法論Ⅰ 急性期にある人の看護	1.急性期にある対象の特徴 2.急性期にある対象が受ける医療 3.急性期にある対象の看護 4.急性期にある対象の看護の実際 5.外科的治療の特徴 6.手術前患者の看護 7.手術中患者の看護 8.手術後患者の看護 9.周手術期にある対象への看護の実際 10.循環器に障害のある患者の特徴 11.援助の方法	1	30	2 年次
方法論Ⅱ リハビリ期にある人の看護	1.障害がある人とリハビリテーション 2.ステージ別リハビリテーション看護 3.リハビリテーション看護を展開するための基盤 4.生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 5.脳血管疾患の治療と看護 6.リハビリテーション期にある対象の看護の実際 7.脳梗塞で麻痺のある対象への看護技術	1	30	2 年次
方法論Ⅲ 慢性期にある人の看護	1.慢性疾患とともに生きる対象の理解 2.慢性疾患とともに生きる対象を支える看護 3.慢性疾患をもつ対象の看護 4.慢性疾患をもつ対象への看護の実際	1	30	2 年次

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
方法論Ⅳ 終末期にある人の看護	1.緩和ケアの理念、現状と課題 2.日本人の死生観 3.緩和ケアにおけるチームアプローチ 4.緩和ケアの広がり 5.緩和ケアにおける看護介入 6.スピリチュアルケア 7.化学療法を受ける患者の看護	1	30	2 年次
方法論Ⅴ 成人看護過程	急性期看護過程	1	30	2 年次
臨地実習 成人・老年看護学実習Ⅰ	急性期のある対象の看護	2	90	2 年次
成人・老年看護学実習Ⅱ	慢性期にある対象の看護	2	90	2 年次

成人看護学概論

目 的

成人看護の対象と対象の健康に関する現状を学び、看護の役割を理解する。

目 標

1. 成人看護の対象とその特徴が理解できる
2. ライフサイクルから見た成人各期の特徴と発達課題が理解できる
3. 成人の健康と生活諸要因に関連する健康問題について理解できる
4. 成人保健の動向について理解できる
5. 成人を対象にする医療活動について理解できる
6. 成人看護学に必要な基礎理論を活用し、看護師の援助役割と患者・家族への教育と支援の必要性が考えられる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.成人と生活 1)対象の理解 (1)生涯発達、各発達段階の特徴（青年期・壮年期・向老期） 2)対象の生活 2.生活と健康 1)成人を取り巻く環境と生活から見た健康 2)生活と健康を守りはぐくむシステム (1)保健・医療・福祉システムの概要と連携 「成人の生活と健康」について ※青年期・壮年期・向老期の特徴・発達段階・生活・健康について 3.成人への看護アプローチの基本 1)生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助 2)症状マネジメント 3)健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 4)人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 5)チームアプローチ 6)看護におけるマネジメント 7)家族支援 4.成人看護における倫理的判断と意思決定支援 1)看護実践における倫理的判断 2)意思決定支援	30	講 義 GW	筆記試験

内 容	時間数	授業形態	評 価
5.成人の健康レベルや状態に対応した看護 6.ヘルスプロモーションと看護 7.健康バランスの構成要素 8.成人に特徴的な健康問題の要因とその予防 1)生活習慣病 2)成人とストレス 3)職業性疾病 4)感染症 9.新たな治療法・医療処置の開発・普及 1)移植・再生医療 2)臨床試験(治験) 3)遺伝医療・ゲノム医療 10.新たな治療法や医療処置を受ける患者・家族の看護 1)新たな治療法の選択における問題 2)看護方法の開発			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統別看護学講座 専門分野 成人看護学① 成人看護学総論 看護がみえる Vol.5 対象の理解 I	小松 浩子 他 医療情報科学研究所	医学書院 メディックメディア

目的

目標

1. 周手術期・急性期にある人の特徴と看護上の問題について理解できる
2. 周手術期・急性期にある人の援助方法を理解できる
3. 循環器に障害のある人の特徴と看護問題を理解できる
4. 急性期の病態を理解し、生命を守るための援助方法が理解できる

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.急性期にある対象の特徴 1)侵襲刺激に対する生体反応 2)急性期の心理的反応 3)急性期の治療を受ける患者とその家族 2.急性期にある対象が受ける医療 1)手術療法 2)集中治療 3)救急医療 3.急性期にある対象の看護 1)危機状況と危機にある対象への支援 (1)アギュララとメズイック、フィंकのモデルによる 危機介入 4.急性期にある対象の看護の実際 5.外科的治療の特徴 1)手術侵襲と生体反応 2)創傷管理法 6.手術前患者の看護 7.手術中患者の看護 8.手術後患者の看護 9.周手術期にある対象への看護の実例 10.循環器に障害がある患者の特徴 1)身体面・精神面・社会面・生活面への影響 2)致死的变化の可能性 3)危機状況	24 6	講義 演習	筆記試験 演習の振り返り提出物

内 容	時間数	授業形態	評 価
11.援助の方法 1) 身体的苦痛・精神面・日常生活への援助 2) 緊急時の援助・治療に伴う援助・合併症の予防 3) リハビリテーション 4) 生活習慣の確立			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論	矢永 勝彦 他編	医学書院
系統看護学講座 成人看護学① 成人看護学総論	小松 浩子 他	医学書院
系統看護学講座 成人看護学 [3] 循環器	阿部 光樹 他	医学書院
系統看護学講座 成人看護学 [5] 消化器	金田 智 他	医学書院
看護がみえる Vol.5 対象の理解 I	医療情報科学研究所	メディックメディア

目的

目標

1. 障害をもちながら生活する対象を理解する
2. リハビリテーション期にある対象と家族の生活を再構築するための看護の役割について理解する
3. 経過や機能障害に応じたリハビリテーション方法と看護の役割について理解する

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 障害がある人とリハビリテーション 1) 障害とは 2) 障害の捉え方と国際生活機能分類 2. ステージ別リハビリテーション看護 1) 経過別リハビリテーション看護 2) 成人期のリハビリテーション看護 3. リハビリテーション看護を展開するための基盤 1) リハビリテーションを阻害・促進する要因 2) リハビリテーション看護の対象理解 3) 障害を持つ人の心理的問題 4) リハビリテーション看護における倫理的課題 4. 生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 1) 運動機能障害のある患者の看護 2) 嚥下機能障害のある患者の看護 3) 排泄機能障害のある患者の看護 4) 呼吸機能障害のある患者の看護 5) 言語障害のある患者の看護 6) 高次機能障害のある患者の看護	14	講 義	筆記試験
5. 脳血管疾患の治療と看護 1) 脳血管障害の病態と治療 2) 脳血管障害患者の看護 6. リハビリテーション期にある対象の看護の実際 脳血管疾患（脳梗塞） 7. 脳梗塞で麻痺のある対象への看護技術	16	GW 演 習	

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 成人看護学① 成人看護学総論	小松 浩子 他	医学書院
系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護	武田 宜子 他	医学書院
系統看護学講座 成人看護学 [7] 脳・神経	井出 隆文 他	医学書院
看護がみえる Vol.5 対象の理解 I	医療情報科学研究所	メディックメディア

成人看護学方法論Ⅲ 慢性期にある人の看護

目 的

慢性疾患が人生に及ぼす影響を身体・精神・社会・霊的側面から捉えて、生涯健康の自己管理を必要とする人にセルフケアを促進する看護について学ぶ。

目 標

- 1.慢性疾患をもつ対象の特徴と生活者として身体・精神・社会・霊的側面から理解する
2. 慢性疾患を受け入れるプロセスから対象のセルフケアマネジメントを支える看護について理解する
- 3.慢性疾患とともに生活の再構築が必要な対象への退院支援・教育指導について理解する

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.慢性疾患とともに生きる対象の理解 1)慢性疾患と慢性疾患を持つ人の特徴 2)自己概念の変化 3)慢性疾患と発達課題 4)慢性疾患が役割に与える影響 2.慢性疾患とともに生きる対象を支える看護 1)セルフケアへの支援 2)セルフマネジメントへの支援 3)治療の意思決定を支える援助 4)生活の再構築への支援 (1)主体的取り組みの促進 (2)教育的アプローチ (成人教育・自己効力感) (3)多職種連携・協働 3.慢性疾患をもつ対象の看護 1)慢性疾患をもつ対象の治療と看護 (1)糖尿病をもつ対象の経過と看護 ①急性期・回復期・慢性期の看護 4.慢性疾患をもつ対象への看護の実際 糖尿病をもつ対象への看護	30	講 義 演 習	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 成人看護学 [5] 消化器	金田 智 他	医学書院
系統看護学講座 成人看護学 [6] 内分泌・代謝	黒江 ゆり子 他	医学書院
看護がみえる Vol.5 対象の理解 I	医療情報科学研究所	メディックメディア

成人看護学方法論Ⅳ 終末期にある人の看護

目 的

終末期にある患者とその家族の QOL を高め、その人らしく生き抜くことができるよう支援する看護を学ぶ。

目 標

1. わが国の緩和ケアの現状と課題が理解できる
2. 終末期にある人とその家族の特徴が理解できる
3. 終末期患者とその家族を含めた緩和ケアの実際を知る
4. 人間の生と死について考えることができる

1 単位（30 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 緩和ケアの理念、現状と課題 1) 緩和ケアの歴史 2) 緩和ケアの理念 3) わが国での緩和ケアの現状 4) わが国の緩和ケアの課題 5) 緩和ケアに関する教育と研究	6	講 義 演 習	筆記試験 (100%)
2. 日本人の死生観	2		
3. 緩和ケアにおけるチームアプローチ 1) チームアプローチの意義と専門性 2) 看護師に求められる専門性と責任	2		
4. 緩和ケアの広がり 1) ライフサイクルにおける広がり 2) 様々な疾患における広がり 3) 療養の場の広がり	2		
5. 緩和ケアにおける看護介入 1) コミュニケーションと意思決定支援 2) 全人的苦痛への支援 3) ホスピス病棟における看護の実際 4) 在宅における緩和ケアの実際 5) 身体的症状緩和への看護介入 6) 臨死期のケア	14		

内 容	時間数	授業形態	評 価
6. スピリチュアルケア	2	講 義	
7. 化学療法を受ける患者の看護	2		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 別巻 緩和ケア	恒藤 暁	医学書院

成人看護学方法論Ⅴ 成人看護過程

目 的

健康障害をもった成人期にある人の看護過程を展開する技術を学ぶ。

目 標

1. 急性期にある人の健康上の課題をアセスメントし、解決する過程を学ぶ
2. 看護過程を展開し、成人のセルフマネジメントの援助について理解する。

1 単位（30 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 急性期看護過程 1) 情報整理 2) アセスメント 3) 看護問題の明確化 4) 看護目標の設定 5) 看護計画の立案	30	講 義 演 習	看護過程

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 成人看護学 [2] 呼吸器	金田 智 他	医学書院
系統看護学講座 成人看護学 [3] 循環器	阿部 光樹 他	医学書院
系統看護学講座 成人看護学 [5] 消化器	金田 智 他	医学書院
系統看護学講座 成人看護学 [6] 内分泌・代謝	黒江 ゆり子 他	医学書院
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論	矢永 勝彦 他編	医学書院
看護がみえる Vol. 4 看護過程の展開	医療情報科学研究所	メディックメディア
看護がみえる Vol. 5 対象の理解 I	医療情報科学研究所	メディックメディア

成人・老年看護学実習

目 的

対象を総合的に理解し、さまざまな健康段階にある対象と家族に必要な看護を実践できる能力を養う。

目 標

1. 発達段階の特徴や生活背景を理解し、対象を総合的に捉えることができる
2. 健康問題のある対象とその家族に健康段階に合わせた看護が実践できる
3. 疾病の経過、症状、治療処置に応じた看護技術が展開できる
4. 保健医療福祉チームの一員としての看護職の役割を認識し、関連職種との連携・協働の必要性を理解できる

4 単位（180 時間）

区 分	単位	実習の目的	実習目標
	時間数		
成人・老年看護学実習Ⅰ 急性期にある対象の看護	2 (90)	・成人期・老年期にある健康生活の急激な破綻にある対象とその家族を理解し、急性期および周手術期にある対象の手術侵襲や危機的状況からの回復に向けた看護の実践について学ぶ	1. 対象の急性期および周手術期の身体的・精神的・社会的・霊的に及ぼす影響について理解することができる 2. 対象の急性期による変化を捉え、回復を促すために必要な援助を考えることができる 3. 対象の状況に合わせた援助を実践し、評価することができる 4. 保健医療福祉チームにおける看護師の役割と多職種との連携について理解できる
成人・老年看護学実習Ⅱ 慢性期にある対象の看護	2 (90)	・成人期・老年期にある慢性期の対象の健康問題が生活に及ぼす影響をとらえ、生活の再構築に必要な看護の実践について学ぶ	1. 慢性期にある対象の身体的・精神的・社会的・霊的に及ぼす影響について理解することができる 2. 対象のセルフケア能力を活かし、生活の再構築に必要な援助を考えることができる 3. 対象の状況に合わせて援助を実践し、評価することができる 4. 保健医療福祉チームにおける看護師の役割と多職種との連携について理解できる

老 年 看 護 学

老年看護学では、老年期にある人々の身体的・精神的・社会的・霊的变化を捉え、その中における生活および老年者を支える家族やその社会という視点で、老年者の多様性を理解していく必要がある。その上で、様々な健康課題をもつ老年者とその家族の、その人なりの健康と生活機能を支える看護を実践していくための基本的な知識・能力を身につけることを目的としている。

老年者の理解および看護実践では、老年者の人権・尊厳を守り、本人およびその家族の意思を尊重する姿勢をもつことが大切である。また、個々の潜在能力を見出し、あらゆる場面で発揮できることを信じる姿勢で臨むことも大切である。

目 的

老年者の健康と生活機能を支えるための基礎的な知識・能力を身につけ、老年者個々の潜在能力を見出し、発揮するための看護実践の基本を学ぶ。

目 標

1. 老年者の身体的・精神的・社会的・霊的变化と生活の多様性を理解することができる
2. 老年者を支える家族およびその社会の現状と課題を理解し、健康を支える保健・医療・福祉サービスを理解することができる
3. 老年期に起こりやすい健康課題を理解することができる
4. 老年看護学の基本的考え方と看護の機能・役割を理解することができる
5. 老年者の健康と生活機能を支えるための看護が実践できる
6. 老年者個々の健康状態を加齢による身体、精神、社会への影響、および生活習慣・価値観との関連で捉え、老年者個々の潜在能力を見出し、発揮するための看護実践の考え方を理解することができる
7. 老年者の人権・尊厳を守り、本人の意思を尊重する態度を身につける

4 単位 (105 時間) 実習 3 単位(135 時間)

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
老年看護学概論	1.高齢者の理解 2. 高齢者の身体的特徴 3. 高齢者の知的機能・認知機能の特徴 4. 高齢者の心理的特徴 5.高齢者の生活 6.高齢者のライフサイクルと発達課題 7.老年看護の役割 8.高齢者を取り巻く保健医療福祉制度 9.高齢者の権利擁護	1	30	1 年次
方法論Ⅰ 老年者の健康と生活機能を支える看護	1.老年期を生きる人々の健康 2.老年看護の基本的技術 3.老年者の健康と生活機能を支える看護 4.老年看護技術演習	1	30	2 年次
方法論Ⅱ 老年者の健康課題と看護	1.老年病の理解 2.老年期に起こりやすい障害・疾病をもつ老年者への看護 3.治療・処置に伴う老年者の看護 4.老年者の終末期における看護	1	15	2 年次
方法論Ⅲ 老年看護過程	1.老年看護におけるアセスメントツール 2.老年看護過程 事例展開	1	30	2 年次
臨地実習 成人・老年看護学実習Ⅲ	健康課題をもつ老年者の看護	3	135	3 年次

老年看護学概論

目 標

1. 老年期を生きる人々の身体的・精神的・社会的・霊的变化を理解することができる
2. 老年期を生きる人々の生活の多様性を理解することができる
3. 老年者を支える家族と社会の現状を理解し、倫理的課題について考えることができる
4. 老年看護学の基本的考え方を理解し、老年看護に携わる者の責務について考えることができる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.高齢者の理解 1) 高齢者とは 2) 多様な高齢者像 3) 高齢者の健康のとらえかた 2.高齢者の身体的特徴 3.高齢者の知的機能・認知機能の特徴 4.高齢者の心理的特徴 5.高齢者の生活 1) 高齢者にとっての生活とは 2) 高齢者の生活リズム 3) 高齢者の QOL 4) 高齢者の生活を支える経済と住まい 6.高齢者のライフサイクルと発達課題 1) 高齢者と家族の状況 2) 家族のライフサイクルからみた老年期 3) 高齢者の生きがいと社会生活 4) 高齢者の発達課題 7.老年看護学と老年看護の役割 8.高齢者を取り巻く保健医療福祉制度 9.高齢者の権利擁護 10.高齢者体験演習 高齢者虐待演習 (GW)	30	講 義 演 習 GW	筆記試験 レポート

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 老年看護学	北川 公子 他	医学書院

老年看護学方法論Ⅰ 老年者の健康と生活機能を支える看護

目 標

1. 老年期を生きる人々の健康の考え方を理解することができる
2. 老年者の健康を踏まえ、生活機能を支えるための看護が理解できる
3. 老年者の健康と生活機能を支えるための看護が実践できる

1 単位（30 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 老年期を生きる人々の健康 1) 老年者における健康 2) 老年者の健康の特徴	2	講 義	筆記試験 技 術 レポート
2. 老年看護の基本的技術 1) 老年看護に必要なアセスメント技術 (1)フィジカルアセスメントに必要な基本技術 (2)系統別アセスメント (3)生活機能評価、精神・心理機能評価 2) 老年者とのコミュニケーション (1)加齢によるコミュニケーション能力の変化 (2)老年者とのコミュニケーションの方法	4		
3. 老年者の健康と生活機能を支える看護 1) 睡眠と休息 2) 食生活と栄養 3) 排泄 4) 清潔と身じたく 5) 活動と生きがいづくり 6) 事故防止と救急時の対応	2		
4. 老年看護技術（状況設定） 1) 排泄の援助：浣腸・摘便 2) アクティビティ 3) 高齢者看護におけるアロマセラピー	12		
	10	学内演習	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 老年看護学 写真でわかる高齢者ケア	北川 公子 他 東京都健康長寿医療 センター看護部	医学書院 インターメディカ

老年看護学方法論Ⅱ 老年者の健康課題と看護

目 標

1. 老年者に起こりやすい健康課題とその特徴を理解することができる
2. 老年者に起こりやすい健康課題を持つ老年者とその家族の看護を理解することができる

1 単位（15 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 老年病の理解 1) 老年者の疾患の特徴 2) 老年者の主要な症候と起こりやすい問題	4	講 義	筆記試験
2. 老年期に起こりやすい障害・疾病を持つ老年者への看護 1) 摂食・嚥下障害 2) 脱水 3) 骨折・廃用症候群 4) 認知症	11		
3. 治療・処置に伴う老年者の看護 1) 入院・診療を受ける老年者の看護 2) 手術療法を受ける老年者の看護 3) 薬物療法に伴うリスク			
4. 老年者の終末期における看護 1) 老年者にとってのエンドオブライフケア 2) 老年者へのエンドオブライフケアにおける看護の役割			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論	鳥羽 研二 他	医学書院
系統看護学講座 専門分野 老年看護学	北川 公子 他	医学書院

老年看護学方法論Ⅲ 老年看護過程

目 標

1. 健康課題をもった老年者とその家族についてのアセスメントができる
2. 老年者個々の健康課題を、加齢による身体的・精神的・社会的・霊的側面への影響、生活習慣・価値観との関連で捉えることができる
3. 老年者の健康課題が家族に及ぼす影響を理解することができる
4. 老年者およびその家族の健康と生活機能を支えるための個別性のある看護計画が立案できる
5. 老年者の看護実践に対する評価の考え方が理解できる

1 単位（30 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 老年看護におけるアセスメント 1) アセスメントツール 2) ウェルネスの視点に基づく老年看護過程 3) 生活機能に焦点をあてたアセスメント	4	講 義	看護過程 (100%)
2. 老年看護過程 事例展開 1) アセスメント 2) 看護問題 3) 看護問題と援助の方向性の明確化 4) 看護目標の設定と計画の立案 5) 実施・評価	26	GW 個人	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 老年看護学	北川 公子 他	医学書院

成人・老年看護学実習

目 的

健康課題を抱えた対象とその家族を理解し、最善の生活を送るための看護を実践することができる。

目 標

1. 健康課題が対象の生活機能と、その家族におよぼす影響を捉えることができる
2. 健康課題を抱えた対象の生活機能を支えるための看護援助を考えることができる
3. 生活機能を考慮し、その人らしい生活を送るための看護援助を実践することができる
4. さまざまな生活の場を知り、老年者の生活の多様性について考えることができる
5. 保健医療福祉チームにおける看護師の役割を考えることができる

3 単位（135 時間）

区 分	単位	実習の目的	実習目標
	時間数		
成人・老年看護学実習Ⅲ 健康課題をもつ老年者の看護	3 (135)	・健康課題を抱えた対象とその家族を理解し、最善の生活を送るための看護を実践することができる	1.健康課題が対象の生活機能と、その家族におよぼす影響を捉えることができる 2.健康課題を抱えた対象の生活機能を支えるための看護援助を考えることができる 3.生活機能を考慮し、その人らしい生活を送るための看護援助を実践することができる 4.さまざまな生活の場を知り、老年者の生活の多様性について考えることができる 5.保健医療福祉チームにおける看護師の役割を考えることができる

精 神 看 護 学

精神看護学は、すべてのライフサイクル、すべての健康段階にある方を対象としている。現代社会はストレスに満ちており、心の問題でケアを必要とする人が増加している。また、災害や事故で被害を受けた方々に対しても心のケアが必要であり、精神保健の重要性が高まっている。

心の健康問題や病をもった方が、その人らしく生活していくことを、ストレングス・レジリエンス・エンパワーメントの視点をもち支援していくことを考え、看護を実践する。

近年の精神保健福祉の施策は「入院治療中心から生活医療中心へ」シフトしている。精神に障害をもつ方もそうでない方も「生活者」という点では同じであり、病気や障害があることはその方のすべてではなく、健康な部分や強みに着目することが大切である。看護として何ができるのかを考えることはもちろん、さまざまな職種と連携し、心の健康問題や病気をもった方が中心となって、生活支援や治療が進められるよう考えることを学ぶ。

精神看護では対象となる方の話に耳を傾け思いを受け止めること、声にならない思いを知ろうとする「対象理解」の姿勢が必要である。対象に向き合うには「自己洞察」がとても大切になる。自己を客観視し、誠実に謙虚に他者の心に寄り添おうとする態度を身に着ける。

目 的

人間の心の健康を、成長・発達・社会状況の面から捉え、心の健康の保持増進、精神障害の予防および精神に障害をきたした人への看護を統合的に学ぶ。

目 標

1. 心の構造と機能、現代の社会生活が心の健康に及ぼす影響を理解し、人生各期を通じて心の健康を保ち、心の発達を促す支援について理解できる
2. 精神障害に至る過程と精神障害に対する検査、治療法が理解できる
3. 精神に障害をもつ方を生活者として捉え、その方らしい生活を支えていくための看護師の役割や、コメディカルとの連携について理解できる
4. 地域社会で生活していくうえで必要となるサポートシステムについて理解できる
5. 精神に障害がある対象を理解しようとする姿勢をもち、看護を展開するための基本的能力となる「対象理解」と「自己洞察」について実践できる

4 単位 (105 時間) 実習 2 単位(90 時間)

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
精神看護学概論	1.精神看護学とはなにか 2.精神保健の考え方 3.心のはたらきと人格の形成 4.関係のなかの人間 5.地域におけるケアと支援 6.医療現場におけるメンタルヘルスと看護 7.精神医療で用いられる理論 8.社会のなかの精神障害 9.身体拘束演習	1	30	2 年次
方法論Ⅰ 精神疾患の理解	1.精神疾患のあらわれ方 精神障害の診断と分類 2.精神科での治療 3.精神障害と治療の歴史	1	15	2 年次
方法論Ⅱ 精神を障害された人の看護	1.ケアの人間関係 2.回復を支援する 3.入院治療の意味 4.身体をケアする 5.安全を守る 6 災害時のメンタルヘルスと看護 7.看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 8.自分や他者のコーピングを知る：WRAP 演習	1	30	2 年次
方法論Ⅲ 看護過程	1.看護に必要な情報 2.看護目標の設定と計画の立案 3.看護実践 4.評価 5.看護過程演習	1	30	2 年次
臨地実習 精神看護学実習	1.精神に障害をもつ対象の理解 2.精神看護の特殊性の理解 3.必要な看護の実践	2	90	3 年次

目的

目標

1. 精神看護の目的と意義、対象について理解できる
2. 心の成長発達の過程や社会状況の中で起こる危機と理論を理解できる
3. 精神医療で用いられる理論・モデルについて理解できる
4. 生活の場における対人相互関係を理解し取り巻く環境と精神保健について学ぶ
5. 地域における精神保健について理解できる
6. 精神保健医療と看護の変遷と今後の課題について理解できる

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.精神看護学とはなにか	22	講 義	筆記試験
2.精神保健の考え方			
1) 精神の健康とは			
2) 心身の健康に及ぼすストレスの影響			
3.心のはたらきと人格の形成			
4.関係のなかの人間			
5.精神看護で用いられる理論	2		
1) オレム・アンダーウッド理論			
2) ペプロウの看護論 3) トラベルビーの看護論			
6.社会のなかの精神障害			
1) 精神障害と文化 2) 精神障害と社会学			
3) 精神障害と法制度			
4) 主な精神保健医療福祉対策とその動向	2		
7.地域におけるケアと支援			
8.医療現場におけるメンタルヘルスと看護			
9.身体拘束演習	4	演 習	

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 精神看護学① 精神看護の基礎	武井 麻子 他	医学書院
系統看護学講座 専門分野 精神看護学② 精神看護の展開	武井 麻子 他	医学書院

精神看護学方法論Ⅰ 精神疾患の理解

目 的

精神疾患、症状の特徴、および治療法を学ぶ。

目 標

1. 精神に障害をもった人を理解するための基礎知識として健康障害および状態像を学ぶ
2. 精神科治療に必要な診断の基礎や主な検査について理解できる
3. 精神科で行われている主な治療法を理解できる
4. 主な精神疾患の種類、症状、治療について理解できる

1 単位（15 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.精神科疾患のあらわれ方 1) 精神を病むことと生きること 2) 精神症状論と状態像～理解への手掛かり 3) 精神障害の診断と分類 2.精神科での治療 1) 精神科における治療 2) 精神療法 3) 薬物療法 4) 電気けいれん療法 その他 5) 環境療法・社会療法 3.精神障害と治療の歴史 1) 日本における精神医学・精神医療の流れ	15	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 精神看護学① 精神看護の基礎	武井 麻子 他	医学書院
系統看護学講座 専門分野 精神看護学② 精神看護の展開	武井 麻子 他	医学書院

目的

目標

1. 精神を障害された人の看護の目的や役割について理解できる
2. 治療的なコミュニケーションについて学び、対人関係を成立するための援助について理解できる
3. 精神を障害された人の治療における援助について理解できる
4. 主要な症状や障害の段階に応じた看護の役割や援助方法について理解できる
5. 精神を障害された人の社会復帰活動と社会支援システムにおける看護の役割を理解できる
6. 精神を障害された人の人権擁護に共感できる

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.ケアの人間関係 1) ケアの前提・原則・方法 2) 患者 - 看護師関係における感情体験 2.回復を支援する 1) 治療場におけるリカバリーの試みと看護の視点 3.入院治療の意味 1) 入院中の観察とアセスメント 2) 退院に向けての支援とその実際 4.身体をケアする 1) 精神科における身体を通した看護ケアの実際 2) 精神科の治療に伴う身体のケア 5.安全を守る：リスクマネジメントの考え方と方法 6.災害時のメンタルヘルスと看護：災害時における心のケア 7.看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 8.自分や他者のコーピングを知る：WRAP 演習	26	講 義	筆記試験
	4	演 習	

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 精神看護学① 精神看護の基礎	武井 麻子 他	医学書院
系統看護学講座 専門分野 精神看護学② 精神看護の展開	武井 麻子 他	医学書院

精神看護学方法論Ⅲ 看護過程

目 的

精神を障害された人の看護過程を展開する技術を学ぶ。

目 標

1. 精神を障害された人について必要な情報を収集し、アセスメントの中から生活上の困りごとや生きにくさを抽出できる
2. 症状がありながらもその人らしく生活することや、対象にとっての自立（自己決定）の意味を考えることができる
3. セルフケアの定義を踏まえて対象のセルフケア能力を査定し、患者に必要な介入を考えることができる
4. 対象のストレングス・エンパワーメント・レジリエンスの考えに基づいた看護計画を立案できる

1 単位（30 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.看護に必要な情報 1) 精神看護の課題と現状 2) 精神を障害された人の看護における視点について 3) オレム・アンダーウッド理論に基づいたセルフケアアセスメントについて 4) 自己概念アセスメントについて	10	講 義 演 習	展 開 され た 看 護 過 程
2.看護目標の設定と計画の立案 3.看護実践 4.評価 5.看護過程演習	20		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 精神看護学① 精神看護の基礎	武井 麻子 他	医学書院
系統看護学講座 専門分野 精神看護学② 精神看護の展開	武井 麻子 他	医学書院
看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術	山本 勝則 他	メヂカルフレンド社

精神看護学実習

目 的

精神に障害のある対象を理解し、精神の健康を回復するために必要な看護が実践できる基礎的な能力を養う。

目 標

1. 精神障害のある患者との関わりを通して精神障害者を理解できる
2. 精神状態が日常生活に与える影響を捉え、自立に向けての援助ができる
3. 患者・看護者の相互関係の中で自己を振り返り、治療的な関わりに至る発展過程を理解できる
4. 治療過程における看護者の役割が理解できる
5. 精神医療における生活支援活動を知り、看護の役割・機能を考えることができる

2 単位（90 時間）

区 分	単位	実習の目的	実習目標
	時間数		
精神看護学実習	2 (90)	・精神障害によって日常生活に支障をきたした人に対して、精神的健康を可能な限り回復し人間的尊厳をもって、その人が望む生活をその人らしく送れるように援助する基礎的な能力を養う。	1.精神に障害をもつ人の心と行動を生物学的・心理学的・社会的側面から理解する 2.精神状態が日常生活に与える影響を捉え、自立に向けての援助を実施する 3.患者・看護者の相互関係の中で自己を振り返り、治療的な関わりに至る発展過程を理解する 4.治療過程における看護の役割を理解し、効果的な治療を行えるための援助ができる 5.精神科における生活支援活動や地域で行われている保健・医療・福祉のアプローチについて知る

小 児 看 護 学

小児看護は、子どもと家族が主体となり、より健康的な生活を送ることができるよう看護していくことを目指している。小児看護学では、小児看護の対象である子どもについて理解し、人権を尊重した看護を実践するために、子どもの心身の成長・発達過程や特徴を学ぶ。さらに、子どもを取り巻く環境として、現代の家族や社会の状況を知り、家族の発達過程や特徴についても学ぶ必要がある。近年、子どもを取り巻く環境はめまぐるしく変化しており、その中での小児看護の役割は、子どもと家族への健康増進や健やかな成長・発達の保障など、直接的な支援だけではなく、虐待・いじめ・不登校など社会的な側面からも支援が求められている。入院・治療中の子どもだけでなく、家庭や学校などあらゆる場面で、すべての健康レベルの子どもと家族を支えることが小児看護の役割として重要である。そのため、小児看護学では対象となる子どもと家族の健やかな生活を支えるための看護実践能力を養うことが必要となる。

目 的

子どもの成長・発達について理解し、社会の変化が子どもにどのように影響しているかを考え、すべての健康レベルにある子どもと家族の看護を学ぶ。

目 標

1. 子どもの成長・発達と健康増進のための子どもと家族への看護について学ぶ
2. 病気や治療・入院が子どもと家族に与える影響と看護について学ぶ
3. 特別な状況にある子どもと家族への看護について学ぶ
4. 健康問題をもつ子どもと家族への看護について学ぶ
5. 小児期に多い疾患別の看護援助を学ぶ
6. 事例演習を通して、子どもと家族に必要な看護過程の基本的知識を学ぶ

4 単位 (90 時間) 実習 2 単位(90 時間)

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
小児看護学概論	1.子どもと家族を取り巻く環境 2.小児看護における倫理 3.小児各期における心身の成長・発達の特徴と課題 4.小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護 5.子どもと家族を取り巻く社会の状況と政策 6.重症心身障害児とその家族への支援	1	30	2 年次

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
方法論Ⅰ 小児期に多い疾患の理解	1.基本的な病因とその成り立ち 2.呼吸器疾患 3.循環器疾患 4.消化・吸収・代謝疾患 5.腎・泌尿器疾患 6.血液・造血器疾患 7.アレルギー性疾患 8.内分泌疾患 9.神経・免疫機能疾患 10.感染性疾患 11.特別な状況にある子どもの疾患 12.新生児疾患	1	15	2 年次
方法論Ⅱ 小児の健康問題と看護	1.疾病や入院・治療が子どもと家族に与える影響と看護 2.検査・処置を受ける子どもと家族への看護 3.特別な状況にある子どもと家族への看護 4.急性期にある子どもと家族への看護 5.慢性的な疾患・障害がある子どもと家族への看護 6.終末期にある子どもと家族への看護	1	30	2 年次
方法論Ⅲ 小児における看護技術	1.子どものフィジカルアセスメント 2.検査・処置を受ける子どもと家族への看護技術① 3.検査・処置を受ける子どもと家族への看護技術② 4.事例による看護過程の展開	1	15	2 年次
臨地実習 小児看護学実習	1.健康な子どもの看護 2.健康問題をもつ子どもの看護	2	90	3 年次

小児看護学概論

目 的

子どもを取り巻く環境と成長・発達の視点から、小児看護の対象となる子どもの特性について学ぶ。また、入院中の子どもだけでなく、すべての健康レベルにある子どもを対象に成長・発達を支えるための看護について学ぶ。

目 標

1. 小児看護の対象である子どもと家族の概況について説明できる
2. 小児看護の歴史的変遷と倫理的な視点から、小児看護の役割と今後の課題について考察できる
3. 小児各期における成長・発達の概念と、成長・発達と環境との関連について説明できる
4. 小児各期における心身の成長・発達の評価について説明することができる
5. 子どもにとっての家族の役割と機能、現状について説明することができる
6. 子どもと家族を取り巻く社会背景や抱える健康問題に対する取り組みについて説明できる
7. 子どもと家族が健康な生活を送るために必要な看護について考察できる

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.子どもと家族を取り巻く環境 1) 小児看護の対象 2) 小児看護の目標と役割 3) 諸統計からみた子どもと家族の健康課題 4) 小児看護の変遷 2.小児看護における倫理 1) 子どもの権利の変遷 2) 子どもの権利の意思決定 3) 医療における子どもの治療の選択と意思決定 4) 倫理の原則をふまえた子どものケア 3.小児各期における心身の成長・発達の特徴と課題 1) 子どもの成長・発達の概念 2) 子どもの成長・発達の原則 3) 子どもの成長・発達に影響する因子 4) 各期における成長・発達の評価 5) 発達課題と発達理論	28	講 義 GW DVD	筆記試験

内 容	時間数	授業形態	評 価
4.小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護 1) 子どもにとっての家族の役割と機能 2) 子どもと家族を取り巻く社会背景と抱える健康問題 3) 子どもと家族の健康な生活を送るための看護 5.子どもと家族を取り巻く社会の状況と政策 1) 子どもと家族が地域で生活するための多職種連携と看護の調整役割 2) 学校保健 6.重症心身障害児とその家族への支援	2	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論	奈良間 美保 他	医学書院

備考

試験は筆記試験による ABCDF の 5 段階評価とし、F 評価は単位不認定とする。

※ この授業は実務教育科目である。

(看護師として小児各期の成長・発達の特性と健康レベルに応じた看護について教授する)

小児看護学方法論 I 小児期に多い疾患の理解

目 的

子どもによくみられる疾患の病態・症状・診断・治療を理解し、看護援助に必要な基礎的知識を学ぶ。

目 標

1. 小児領域における代表的疾患の症状や病態生理、治療について説明できる

1 単位（15 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.基本的な病因とその成り立ち 1) 遺伝子異常、先天性異常 (1)染色体異常 (2)胎内環境により発症する先天性異常 (3)ダウン症候群 2.呼吸器疾患 1) 気管支喘息 2) クループ 3) マイコプラズマ肺炎 3.循環器疾患 1) 先天性心疾患 (1)心房中隔欠損症、心室中隔欠損症 (2)動脈管開存症 (3)ファロー四徴症 2) 後天性心疾患 (1)川崎病 4.消化・吸収・代謝疾患 1) 急性胃腸炎 2) 腸重積症 3) 外鼠径ヘルニア 4) 1 型糖尿病 5) フェニルケトン尿症 5.腎・泌尿器疾患 1) 急性糸球体腎炎 2) ネフローゼ症候群 3) 尿路感染症	15	講 義	筆記試験

内 容	時間数	授業形態	評 価
6.血液・造血器疾患 1) 白血病 2) 免疫性血小板減少性紫斑病 7.アレルギー性疾患 1) 食物アレルギー 2) アレルギー性皮膚炎 3) アトピー性皮膚炎 4) アレルギー性鼻炎 8.内分泌疾患 1) 成長ホルモン分泌不全性低身長 2) 先天性甲状腺機能低下症・亢進症 9.神経・免疫機能疾患 1) 熱性けいれん 2) てんかん 3) 筋ジストロフィー 10.感染性疾患 1) 主な感染症 (1)麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘 (2)A 群溶血性連鎖球菌咽頭炎 (3)RS ウイルス感染症 (4)百日咳 (5)突発性発疹 (6)手足口病 (7)ノロウイルス感染症 2) 予防接種 11.特別な状況にある子どもの疾患 1) 乳児ゆさぶられっこ症候群 2) 代理のミュンヒハウゼン症候群		講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論	奈良間 美保 他	医学書院

小児看護学方法論Ⅱ 小児の健康問題と看護

目 的

子どもの成長・発達を考慮し、子どもによくみられる症状・疾患・治療に対する看護と、健康問題や入院・治療が、子どもと家族に及ぼす影響について学ぶ。さらに、子どもの権利を踏まえ援助に必要な知識・技術・態度を習得する。

目 標

1. 子どもによくみられる症状・疾病・治療に対する看護について説明できる
2. 健康問題を抱えた子どもの家族に対する看護について説明できる
3. 健康問題および発達障害を抱えた子どもと家族の特性を踏まえた看護について考察できる
4. 子どもの病気や入院による家族への影響と、必要な看護（知識・技術・態度）について説明できる

1 単位（30 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 疾病や入院・治療が子どもと家族に与える影響と看護 1) 病気に対する子どもの理解の特徴と説明について 2) 診療に伴うプレパレーション 3) 病気や診療・入院が子どもに与える影響と看護 4) 病気や診療・入院がきょうだいと家族に与える影響と看護 5) 痛みを表現している子どもと家族への看護 6) 活動制限が必要な子どもと家族への看護 7) 感染対策上隔離が必要な子どもと家族への看護 8) 外来における子どもと家族への看護 9) 検査・処置を受ける子どもと家族への看護 2. 特別な状況にある子どもと家族への看護 1) 虐待を受けている子どもと家族への看護 2) 災害を受けた子どもと家族への看護 3. 急性期にある子どもと家族への看護 1) 急性期症状のある子どもと家族への看護 2) 救急処置が必要な子どもと家族への看護 3) 周術期における子どもと家族への看護 4) 出生直後から集中治療が必要な子どもと家族への看護	30	講 義 GW	筆記試験

内 容	時間数	授業形態	評 価
4.慢性的な疾患・障害がある子どもと家族への看護 1) 慢性疾患をもつ子どもと家族への看護 2) 先天性疾患のある子どもと家族への看護 3) 心身障害のある子どもと家族への看護 4) 医療的ケアを必要として退院する子どもと家族への看護 5.終末期にある子どもと家族への看護 1) 子どもの死の理解 2) 終末期にある子どもと家族への緩和ケア		講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論 子どもの病気の地図帳	奈良間 美保 他 奈良間 美保 他 鴨下 重彦 柳澤 正義	医学書院 医学書院 講談社

小児看護学方法論Ⅲ 小児における看護技術

目 的

子どもの成長・発達を考慮し、子どもによくみられる症状・疾病・治療に対する看護について事例を通して学ぶ。また、子どもと家族の特徴を踏まえ、適切な援助について考察する。

目 標

1. 子どもと家族を看護するために必要となる基本的な看護過程を説明できる
2. 子どもの基本的な特性を踏まえながら、看護援助に必要なアセスメントができる
3. 子どもと家族の特性を考慮し、看護援助について考察できる

1 単位（15 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.子どものフィジカルアセスメント 2.検査・処置を受ける子どもと家族への看護技術① 1) バイタルサイン測定 2) 身体計測 3) 採血・採尿 4) 骨髄穿刺 5) 腰椎穿刺 3.検査・処置を受ける子どもと家族への看護技術② 1) 与薬 2) 注射 3) 輸液管理 4) 吸引 5) 酸素療法 6) 経管栄養 4.事例による看護過程の展開 1) 看護過程の基本 アセスメントの考え方 2) 事例を用いた看護過程の実際① 3) 事例を用いた看護過程の実際② 4) 事例を用いた看護過程の実際③	15	講 義 演 習 DVD	筆記試験 70% 提出物 30%

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論	奈良間 美保 他	医学書院
系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論	奈良間 美保 他	医学書院
子どもの病気の地図帳	鴨下 重彦 柳澤 正義	講談社
看護実践のための根拠がわかる小児看護技術	添田 啓子 他	メヂカルフレンド社

小児看護学実習

目 的

子どもと家族の健康の回復、維持・増進および発達段階に応じた生活を支援するための看護の実践を学ぶ。

目 標

1. 子どもと家族の健康を看護の視点から統合的にアセスメントし、看護を考察することができる
2. 子どもと家族の健康の回復、維持・増進のための看護援助を多職種と連携をはかりながら実践できる
3. 子どもと家族への看護を通して、小児看護の特徴と役割について理解できる
4. 子どもと家族の安全や人権を守るための自覚と責任をもった行動ができる
5. 子どもとその家族、さらに、実習の中で関わる多様な立場の人々との関わりを通して、看護への関心を高め、自己の看護観を養うことができる

2 単位 (90 時間)

区 分	単位	実習の目的	実習目標
	時間数		
小児看護学実習 1 健康な子どもの看護	1 (45)	・ 集団生活における乳幼児の日常に関わることで、発達を促すための援助の方法を学ぶ	1. 小児看護学実習の課題を明確にし、取り組むことができる 2. 乳幼児期の子どもの成長・発達の概念と環境との関連を踏まえ関わりができる 3. 乳幼児に適したコミュニケーションの実際を学び、よりよい関係作りができる 4. 乳幼児の集団生活における健康管理、安全の重要性が理解できる 5. 保育活動を通して、保育者の役割が理解できる 6. 子どもと家族が健康な生活を送るための小児看護の役割について考察できる

区 分	単位	実習の目的	実習目標
	時間数		
小児看護学実習 2 健康問題をもつ子ども の看護	1 (45)	・健康を障害されている子どもと家族に関わり、成長・発達の特徴を踏まえた看護援助を学ぶ	1. 受けもち患児と家族の健康状態を看護の視点からアセスメントし、成長・発達の特徴を踏まえた看護援助を考察することができる 2. 受けもち患児と家族へ看護チームの一員として多職種と連携をはかりながら必要な援助を実践できる 3. 受けもち患児と家族の安全、人権を守るための自覚と責任ある行動をとることができる 4. 受けもち患児と家族との信頼関係を築くために主体的に取り組むことができる 5. 実践した看護の評価および修正を行い、より個別的な看護援助を実践できる 6. 受けもち患児とその家族への看護を通して、小児看護の特徴および役割を理解し、小児観を養うことができる

備考

試験は実習評価による ABCDF の 5 段階評価とし、F 評価は単位不認定とする。

※ この授業は実務教育科目である。

(看護師として、健康な小児、健康問題をもつ小児の看護の実際について教授する)

母 性 看 護 学

母性とは、人が女性という性をもって生まれ母親となりうる可能性を兼ね備えているなかで、常に子どもとの関係の中での、母となりえる性を意識した概念である。女性は身体的に体内に子どもを宿すことのできる特性をもち、母性愛に代表されるような慈しみの心をもち、社会的にも次世代育成という役割を意識する。そのような中で母性看護とは、親となることの支援を通して、次世代の健全育成を目指す看護学である。

しかし、歴史的に鑑みると社会構造の変化に伴い、女性のライフスタイルも変化し、子どもを生み育てることへの価値観など、女性をめぐる種々の概念は変容しつづけている。近年の世界的見解としては、リプロダクティブヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）を中心に考えていくことが大前提となっており、母性を「産む性」とした従来の生物学的な性の捉え方から、心理社会的特性としての「ジェンダー」を意識した女性という視点に捉えることが必須となっている。また、女性のライフサイクルを捉えた時に、小児期、思春期、成熟期、更年期、老年期といった女性のアイデンティティに関わる周期をもつ。母性とは、女性の中にあるひとつの特徴的なものの見方であるという考え方をもちながら、母性看護はマタニティサイクルに限定することなく、広くライフサイクルのあらゆる段階で生活する女性を対象としている。

つまり、女性のライフサイクルのなかでおこりえる特有の健康障害はもとより、女性自身の生き方や考え方を含め、社会の中にある女性を支援しエンパワメントを発揮しながら、ヘルスプロモーションの視点に立った女性自身が自らの生き方を自分で選択していけることを支援することが母性看護学の目指すところである。さらに人を対象としたときに「胎生期」と胎児を含めた対象の理解とともに、女性のみならず、男性、LGBTQ などセクシュアリティを基盤に対象を捉える必要性を教授する内容の強化を目指す。

そういった社会風潮のなか、着実に医療技術の進歩は進んでいる。特に女性にまつわる生殖医療技術は、不妊治療や代理母、子宮移植などに代表されるように、「Bioethics：生命の倫理」という究極の問いを突きつけられている。人間の生命の尊厳を根底に据えながらも、今何が問われているのかという社会に目を向けながら、看護者としてどのように考え行動するかという倫理的態度をもちこれらを判断していけることが大切である。

目 的

母性看護に関する基礎的な知識・技術を習得し、生命の尊厳を基盤として母性機能を健全に発揮するための看護と、女性の一生を通じその対象に応じた看護援助の基本を学ぶ。

目 標

1. 母性（父性）の特徴をふまえ、母性を取り巻く環境と看護の役割を理解する
2. 女性のライフサイクル各期の特徴を把握し、リプロダクティブヘルス／ライツの概念に基づく母性看護の重要性を理解する
3. 女性の一生を通して母性機能が発揮されるマタニティサイクルにある対象を理解し、健康の保持・増進を目指しながら安全・安楽に環境適応するための看護を実践できる基礎的能力を養う
4. 母子関係、家族関係の形成を支援することの大切さと、多様な価値観を学ぶ
5. 母性保健の動向と母子保健医療チームにおける看護者の役割を理解する
6. 母性看護の対象者を総合的に捉え、生命倫理と看護倫理について考える

4 単位（90 時間） 実習 2 単位(90 時間)

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
母性看護学概論	1.母性看護とは 2.母性看護に役立つ概念と理念 3.母性の健康と社会 4.母性保健をめぐる課題 5.女性のライフサイクル各期における看護	1	30	2 年前期
方法論Ⅰ 周産期における女性の看護	1.妊娠期における看護 2.分娩期における看護 3.産褥期における看護 4.新生児期における看護	1	30	2 年前期
方法論Ⅱ 周産期における異常と看護・母性看護の展開方法	1.妊娠・分娩・新生児・産褥の異常と看護 2.母性看護の展開方法	1	15	2 年後期
方法論Ⅲ 母性における看護技術	1.母性看護に使われる看護技術（沐浴、計測） 2.母性看護における看護過程	1	15	3 年前期
臨地実習 母性看護学実習	1.妊婦・産婦・褥婦の看護 2.新生児の看護 3.母子保健システム・医療チームにおける看護の役割	2	90	3 年次

母性看護学概論

目 的

1. 母性の特徴と母性の基盤となる概念を学び、社会の変遷と現状における女性におかれている課題や役割について理解を深める
2. 女性のライフサイクルを通して母性の発揮を促すための方法と健康の保持・増進に向けて支援する方法を理解する

目 標

1. 母性の特性を学び、セクシャリティ及びリプロダクティブヘルス／ライツの概念を理解する
2. 生涯にわたる女性の健康に関わることを理解する
3. 母性を取り巻く歴史や社会の変遷を理解する
4. 母性看護の対象者とライフサイクル各期の看護を理解する
5. 母性の発揮を促す看護の方法を理解する
6. 母性に関わる倫理的問題について理解する

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.母性看護とは 1) 母性・父性とは：親になること 母性をめぐる定義 2) 母性関係と家族の発達：母子関係形成 家族機能 3) セクシャリティ 4) リプロダクティブヘルス／ライツ 5) ヘルスプロモーション 6) 母性看護のあり方 7) 母性看護における倫理：生命倫理 看護倫理	6	講 義	筆記試験 (70%)
2.母性看護に役立つ概念と理念 1) 愛着形成 2) 母子分離 3) 母子相互作用 4) セクシュアリティ	2		
3. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1) 母性看護の歴史的変遷と現状 2) 母性看護の対象を取り巻く環境	2		
4. リプロダクティブヘルスケア 1) 家族計画 2) 性感染症とその予防 3) H I Vに感染した女性に対する看護 4) 人工妊娠中絶と看護 5) 喫煙女性の健康と看護 6) 性暴力を受けた女性に対する看護 7) 児童虐待と看護 8) 国際化社会と看護	4		

内 容	時間数	授業形態	評 価
5.女性のライフステージ各期における看護 1) 女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化 2) 女性・家族のライフサイクル 3) 母性の発達・成熟・継承 4) 思春期、成熟期、更年期、老年期の健康と看護	16	講 義 GW 発表	GW・発表の 参加状況お よび内容、学 習態度(30%)

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 母性看護学① 母性看護学概論	森 恵美 他	医学書院

備考

試験は筆記試験と演習評価による ABCDF の 5 段階評価とし、F 評価は単位不認定とする。

※ この授業は実務教育科目である。

(助産師として、母性の特性と概念、女性のライフステージ各期の看護について教授する)

母性看護学方法論Ⅰ 周産期における女性の看護

目 的

周産期および新生児の生理的経過とそのアセスメントについて学び、それぞれの過程においてセルフケア能力を高め適応促進に向けた看護の方法を理解する。

目 標

1. 妊産褥婦の身体的特徴と心理的・社会的変化を理解する
2. 妊娠、分娩、産褥の経過について学び、各期に必要なアセスメントと看護を理解する
3. 妊娠、分娩、産褥各期の母子、家族の関係や形成に必要な看護について理解する
4. 新生児の生理とアセスメントについて理解する

1 単位（30 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.妊娠期における看護 1) 妊娠期の身体のしくみ 2) 妊娠期の心理社会的な変化 3) 妊娠期のアセスメント 4) 妊娠期の母子の健康を保つための看護 5) 妊娠期の家族の変化	10	講 義	筆記試験
2.分娩期における看護 1) 分娩の生理 2) 分娩期の心理社会的な変化 3) 分娩期のアセスメント 4) 分娩期の母子の健康を保つための看護 5) 分娩期の家族の変化	8		
3.産褥期における看護 1) 産褥の経過 2) 産褥期のアセスメント 3) 産褥期の母子の健康を保つための看護 4) 産褥期の家族の変化	8		
4.新生児期における看護 1) 新生児の特徴 2) 子宮外環境への適応 3) 新生児の看護	4		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 母性看護学② 母性看護学各論	森 恵美 他	医学書院

目的

目標

- 1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.妊娠・分娩・新生児・産褥の異常と看護 1) 妊婦と胎児にみられる異常と看護 ・ハイリスク妊娠・流早産・妊婦高血圧症候群・合併症 ・前置胎盤・常位胎盤早期剥離・胎児の形態異常 ・出生前診断とケア 2) 産婦にみられる異常と看護 ・娩出力の異常・産道の異常・分娩障害・異常出血 ・胎児機能不全・帝王切開・分娩異常,産科処置と看護 3) 褥婦にみられる異常と看護 ・子宮復古不全・産褥熱,感染症・血栓症・乳房の異常 ・産後の精神障害 4) 新生児にみられる異常と看護 ・低出生体重児・呼吸器疾患・新生児仮死・分娩外傷 ・高ビリルビン血症・ハイリスク新生児の看護	13	講 義	筆記試験
2.母性看護の展開方法 1) ウェルネスの考え方 2) 情報収集・アセスメント 3) 看護診断 4) 看護計画立案、実践・評価の方法	2	講 義	

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 母性看護学② 母性看護学各論	森 恵美 他	医学書院

母性看護学方法論Ⅲ 母性における看護技術

目 的

母子とその家族が健康的な生活を営むために必要な看護技術と看護過程の展開について学ぶ。

目 標

1. 母性に特徴的な看護技術について理解する
2. 産褥期・新生児期の看護過程について理解する

1 単位（15 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.母性看護に使われる看護技術 1) 妊娠・分娩・産褥期技術（妊婦体験、レオポルド触診法、子宮底・腹囲測定、呼吸法・リラックス法、産褥期子宮底触診、乳房の観察、授乳技術） 2) 新生児期技術（沐浴、身体計測、VS 測定）	4	講 義 演 習	実技 (30%) 看護過程 (60%) 演習参加 状況 (10%)
2.母性看護における看護過程 1) 産褥期・新生児期の事例による看護過程の展開（ウェルネス・セルフケアの視点、アセスメント・看護診断・実施・評価のポイント）	11		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 母性看護学① 母性看護学概論 母性看護学② 母性看護学各論 ナーシング・ポケットマニュアル 母性看護	森 恵美 他 森 恵美 他 東野 妙子 他	医学書院 医学書院 医歯薬出版株式会社

母性看護学実習

目 的

女性の一生を通して母性機能が発揮されるマタニティサイクルにある対象(母子)とその周囲を取り巻く社会・環境を理解し、健康の保持・増進を目指しながら安全・安楽に環境適応するための看護を実践できる基礎的能力を養う。

目 標

1. マタニティサイクルにある対象とその家族の特徴を理解できる
2. マタニティサイクルにある対象が順調に経過するための援助の実際を理解し、看護過程が展開できる
3. 母子看護に必要な知識・技術および態度を習得できる
4. 母子保健システムを理解し、保健・医療・福祉チームの一員としての看護者の役割について考えられる
5. 生命の尊厳と母性観・父性観について自己の考えを深めることができる

2 単位 (90 時間)

区 分	単位	実習の目的	実習目標
	時間数		
母性看護学実習	2 (90)	・女性の一生を通して母性機能が発揮されるマタニティサイクルにある対象(母子)を理解し、健康の保持・増進を目指しながら安全・安楽に環境適応するための看護を実践できる基礎的能力を養う	1.マタニティサイクルにある対象(母子)とその家族の特徴を理解できる 2.マタニティサイクルにある対象(母子)が順調に経過するための援助の実際を理解し、看護過程が展開できる 3.母子看護に必要な知識・技術および態度を習得できる 4.母子保健システムを理解し、保健・医療・福祉チームの一員としての看護者の役割について考えられる 5.生命の尊厳と母性観・父性観について自己の考えを深めることができる

看護の統合と実践

看護の統合と実践は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学習した内容をより臨床実践に近い形で学習し、知識・技術・態度を統合し実践する能力を養う。

看護の統合と実践では、チーム医療および多職種と連携・協働する中で看護師としての役割を理解するため、看護業務と医療安全、看護管理、看護と研究、看護と研究演習、災害看護・国際協力、臨床看護の実践Ⅰ・Ⅱの基礎的知識と技術を習得する内容になっている。

看護業務と医療安全では、リスクマネジメントを含む医療安全の基本的な考え方と看護師の役割について学ぶ。看護と研究、看護と研究演習では、看護研究の基礎的知識について学び、社会情勢や最先端医療などについて研究的視点で取り組む。看護管理では、看護マネジメント、チーム医療における看護師としてのメンバーシップおよびリーダーシップ、多職種との連携・協働について学ぶ。

災害看護・国際看護では、災害発生に備えた心構えと看護について、被災時に被災地域や被災者に必要な看護について基礎的知識を学ぶ。また、国際看護の主要概念や異文化理解と諸外国での保健・医療・福祉の課題について、多文化共生社会・国際社会における看護の役割について学ぶ。臨床看護の実践Ⅰでは、各看護学領域の特徴的な疾患事例を通して対象の状態に応じた看護を考える。臨床看護の実践Ⅱでは、基礎的知識と技術を統合し習得する。

統合実習では、基礎分野・専門基礎分野・専門分野で学習した内容の知識・技術・態度を統合させて学び、一人ひとりの対象の状態やニーズに応じた看護実践能力を高めることを目指す。

目 的

医療チームの一員としての看護師の役割を理解し、看護の対象者一人ひとりのニーズに応じた、安全で良質な看護を包括的に提供するための基礎的能力を養う。

目 標

1. 安全な医療・看護を提供するための基本的知識・技術を理解し、対象の状態に応じた看護を実践できる
2. より良い看護を提供するための看護管理を理解することができる
3. 看護における研究の意義・方法を理解し実践できる
4. チーム医療における看護師としてのリーダーシップ・メンバーシップを理解することができる
5. 既習の知識・技術・態度を統合し、看護をマネジメントする基礎的能力を身につけることができる
6. 災害看護の基礎的知識を理解することができる
7. 国際社会の一員として看護が果たす役割と保健・医療・福祉の課題について理解することができる
8. 既習の知識・技術・態度を統合し、対象の状態に応じた看護を理解することができる
9. 医療現場で求められる診療補助技術を安全で確実に提供できるよう、基礎的知識・技術の習得し実践できる

9 単位 (165 時間) 実習 2 単位(90 時間)

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
看護業務と医療安全	1. 医療安全を学ぶことの大切さ 2. 事故防止の考え方を学ぶ 3. 診療の補助業務に伴う事故防止Ⅰ 4. 診療の補助業務に伴う事故防止Ⅱ 5. 療養上の世話における事故防止 6. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 7. 医療安全とコミュニケーション 8. 組織的な医療安全体制の取り組みとわが国の医療安全対策の展望 9. 多重課題への対処 10.KYT 事例で考える看護業務の安全 11.多重課題の対応を考える事例紹介 12.事例に基づき多重課題の優先順位と対処法を考える 13.多重課題演習の実践	2	30	3 年次
看護管理	1. 管理とは何か 2. 看護管理 3. 組織とは 4. リーダーシップとメンバーシップ 5. 目標管理 6. 看護管理の方法 7. 多職種との連携・協働 8. 人材育成とキャリア発達 9. 医療保険制度の仕組み	1	15	3 年次
看護と研究	1. 看護研究の意義と方法 2. 看護研究の実際 3. クリティークとは	1	15	3 年次
看護と研究演習 看護ゼミナール	1. ゼミナール 2. ゼミ発表会	2	60	3 年次
災害看護・国際協力	1. 災害時における看護 2. 看護の国際協力	1	15	3 年次
臨床看護の実践Ⅰ 領域を横断した事例学習	1. 各領域の特徴的な疾患の事例学習 2. 事例発表	1	15	3 年次

授 業 科 目	授 業 内 容	単位数	時間数	実施年次
臨床看護の実践Ⅱ 看護の知識・技術の統合	1. 基本的看護技術の習得 2. 看護の知識と技術の統合	1	15	3 年次
臨地実習 統合実習	1. 複数患者を受け持ち、看護の優先 順位の判断や時間管理をふまえ、チ ームで協力しながら安全に看護実 践ができる 2. 看護管理・病棟管理の実際と医療 安全について理解できる 3. 医療チームにおける看護師の役割 と業務の実際について理解できる 4. 夜間の療養環境と看護師の役割に ついて理解できる 5. 看護師として、看護倫理を基本と した姿勢をもち行動することがで きる	2	90	3 年次

目標

1. 看護事故の構造と看護事故防止の考え方を理解することができる
2. 看護業務上の様々な事故発生要因とその防止方法について理解することができる
3. 組織として医療安全対策に取り組む必要性が理解できる
4. 事例の状況に応じて適切な判断を行うことができ、安全、確実な看護技術を考える能力を養うことができる
5. 多重課題演習において、事例に応じて適切な判断を行い、優先順位を考えたうえで安全で確実な看護技術を提供することができる

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 医療安全を学ぶことの大切さ 2. 事故防止の考え方を学ぶ 3. 診療の補助業務に伴う事故防止Ⅰ 4. 診療の補助業務に伴う事故防止Ⅱ 5. 療養上の世話における事故防止 6. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 7. 医療安全とコミュニケーション 8. 組織的な医療安全体制の取り組みとわが国の医療安全 対策の展望 9. 多重課題への対処	15	講 義	筆記試験
10. 演習 1)KYT 事例で考える看護業務の安全 2)多重課題の対応を考える（事例紹介） 3)事例に基づき多重課題の優先順位と対処法を考える 4)多重課題演習の実践	15	演 習 GW	提出物と 実技演習

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践② 医療安全	川村 治子	医学書院
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ プリント	任 和子 他	医学書院

看護管理

目 的

管理の機能は看護実践のあるところすべてにおいて必要となる。常に管理的思考をもちながら実践できるよう、管理の機能・仕組みを理解し、活用していく基礎的能力を養う。

目 標

1. 看護管理とは何かを理解し、看護をマネジメントしていく過程を理解する
2. 組織の中で質の高い看護サービスを提供する仕組みを理解する
3. チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ、リーダーシップを理解する
4. 保健医療制度の基本・仕組みを理解し看護職の責任と役割を理解する
5. 看護職としてどのようにキャリアを発展させていくか考えることができる

1 単位（15 時間）

内 容	時間数	授業形態	評価
第1章 看護とマネジメント I. 看護管理者と認定看護管理者制度 1. 看護管理とは 2. 看護管理の歴史 3. 看護管理に必要な知識体系	2	講 義	筆記試験
第2章 看護ケアのマネジメント	2		
第3章 看護職のキャリアマネジメント	3		
第4章 看護サービスマネジメント	2		
第5章 マネジメントに必要な知識と体系	2		
第6章 看護を取り巻く諸制度 看護制度・政策論	4		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 看護の統合と実践① 看護管理	上泉 和子 他	医学書院

看護と研究

目 標

1. 看護における研究の意義が理解できる
2. 看護研究における倫理的側面が理解できる
3. 研究の種類と方法が分かる
4. 文献の活用方法を理解する

1 単位（15 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 看護研究の意義と方法 1) 看護研究とは 2) 看護研究の意義 3) 看護研究における倫理 4) 看護研究の目的と分野 5) 研究の種類 6) 研究の方法	7	講 義	①レポート ②演習態度
2. 看護研究の実践 1) 看護研究のすすめ方 2) 文献検索の方法 3) 研究のまとめ方	6		
3. クリティークとは	2	演習	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 別巻 看護研究	坂下 玲子 他	医学書院
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学① 看護学概論	茂野 香おる 他	医学書院

看護と研究演習 看護ゼミナール

目 標

1. 社会情勢や医療の先端知識・技術などを踏まえ、看護の専門性を考えられる
2. ゼミナールを通して、自己の看護観を深められる
3. テーマを選定し、わかりやすく工夫した発表ができる
4. 発表を聴講し、積極的にディスカッションできる

2 単位 (60 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. ゼミナール（ゼミ担当教員の指導の下） 1) テーマ選出 2) テーマに沿った研究・報告・講読・討議 3) 発表原稿・発表教材作成	52	演 習	①演習・態度 ②論文内容
2. ゼミ発表会 1) 会場設営 2) 役割分担 3) 発表 4) 質疑応答 5) 後片付け	8	発 表	③ 発 表 内 容 や態度 上 記 を 評 価 表 に 基 づ き 全 体 的 に 評 価

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 別巻 看護研究	坂下 玲子 他	医学書院

目標

1. 災害看護の概念と構造を理解し、災害サイクルに沿った看護活動を行なう必要性が理解できる
2. 災害時の心理的回復過程を理解し、看護師の役割が理解できる
3. 世界の健康問題の現状を理解し、国際社会の一員として看護が果たすべき役割を理解することができる
4. 様々な国際協力のしくみを理解することができる
5. 異文化を知るとともに医療・看護活動の実際が理解できる

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 災害時における看護 1) 災害時の看護の概念と構造 2) 災害と健康 3) 災害サイクルに沿った看護活動 4) 心理的回復の過程 5) 災害への備えとそのシステム 6) 震災から学ぶ災害時の看護	10	講 義	筆記試験
2. 看護の国際協力 1) 国際看護の基本理念 2) SDG s 3) 世界の健康問題の現状 4) 国際協力のしくみ 5) JICA 協力隊等体験談 6) 多文化・異文化看護	5		

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学	竹下 喜久子 他	医学書院

臨床看護の実践Ⅰ 領域を横断した事例学習

目 的

基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学習した内容の知識を統合させ、臨床でよく見られる疾患の事例を通して、対象の状態に応じた看護を理解することができる。

目 標

1. 事例をもとに各看護学の基本的重要事項を再確認し、各看護学領域との関連を意識して必要な看護を考える
2. 安全な医療・看護を提供するための基本的知識を統合して理解する
3. 専門職業人として求められる看護実践に必要な知識を身につける

1 単位（15 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 各看護学領域の特徴的な疾患の事例学習 1) 終末期の父を支える家族の事例 2) 高齢出産でダウン症の児を出産した事例 3) 統合失調症の青年の社会復帰の事例 4) 軽い認知症の夫を介護する事例 5) 災害で家を失い仮設住宅で暮らす高齢者の事例 ・各グループ 1 事例の看護を検討する	8	講 義 G W	発表内容
2. 事例発表 1) 各事例について、対象に応じて考えた看護を発表	7	発 表	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 看護がみえる Vol.4 看護過程の展開	竹下 喜久子 他 医療情報科学研究所	医学書院 メディックメディア

臨床看護の実践Ⅱ 看護の知識・技術の統合

目 的

1. 卒業時点で看護師として身につけているべき基本的技術を確実に習得し、臨床実践能力の基
本を確立させる
2. 習得した知識・技術の統合を図る

目 標

1. 看護技術の留意点や科学的根拠を述べられる
2. 原則に基づいて正確に看護技術を実践できる
3. 自己の実践能力を振り返ることができる

1 単位（15 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 基本的看護技術の習得 1) 基本的看護技術についてのグループワーク (各技術の留意点・チェック項目を作成) 2) 演習 (1)オリエンテーション (2)デモンストレーション (3)技術演習(使用法・看護技術の実践) ①採血 ②留置針の留置 ③処方箋の確認 ④アンプル吸い上げ ⑥その他 ⑤輸液管理 (輸液ポンプ・シリンジポンプ) (4)病棟における ACLS (心肺蘇生、AED 使用)	5 10	講 義 G W 演 習	授業中やグ ループワー ク時の態度、 レポート提 出などで総 合的に評価

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ	茂野 香おる 他	医学書院
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ	坂下 玲子 他	医学書院
看護がみえる Vol.1 基礎看護技術	医療情報科学研究所	メディックメディア
看護がみえる Vol.2 臨床看護技術	医療情報科学研究所	メディックメディア

統合実習

目 的

医療チームの一員としての体験・夜間実習・複数患者の受けもちを通して、既習の知識・技術・態度を統合し、対象の状態やニーズに応じた看護が実践できる能力を身につける。

目 標

1. 複数患者を受けもち、看護の優先順位の判断や時間管理をふまえ、チームで協力しながら安全に看護実践ができる
2. 看護管理・病棟管理の実際と医療安全について理解できる
3. 医療チームにおける看護師の役割と業務の実際について理解できる
4. 夜間の療養環境と看護師の役割について理解できる
5. 看護師として、看護倫理を基本とした姿勢をもち行動することができる

2 単位 (90 時間)

区 分	単位	実習の目的	実習目標
	時間数		
統合実習	2 (90)	・医療チームの一員としての体験・夜間実習・複数患者の受け持ちを通して、既習の知識・技術・態度を統合し、対象の状態やニーズに応じた看護が実践できる能力を身につける	1. 複数患者を受けもち、看護の優先順位の判断や時間管理をふまえ、チームで協力しながら安全に看護実践ができる 2. 看護管理・病棟管理の実際と医療安全について理解できる 3. 医療チームにおける看護師の役割と業務の実際について理解できる 4. 夜間の療養環境と看護師の役割について理解できる 5. 看護師として、看護倫理を基本とした姿勢をもち行動することができる